

# 日本病院薬剤師会 年表 (昭和20年8月～平成17年10月)

年月	日病薬に関する出来事	社会の出来事
昭和20年8月		●15日、大東亜(太平洋)戦争終了
昭和21年8月 11月		●占領軍総司令部(GHQ)の示唆により、公法人日本薬剤師会と社団法人日本薬学会の合併が協議 ●3日、日本国憲法公布。昭和22年5月3日、施行
昭和23年5月 7月 10月	●全国各地で病院薬剤師の組織化開始	●25日、公法人日本薬剤師会と社団法人日本薬学会が合併。日本薬剤師協会(以下、日薬)を設立 ●22日、東京都病院薬剤師協会(以下、都病薬)設立 初代会長 松岡幹三氏(聖路加病院) 会員100人、会費100円 事務所・三楽病院 ●29日、薬事法公布。昭和18年設立の全薬剤師強制加入であった公法人日本薬剤師会は解散を決定 ●30日、医療法公布。施行規則19条に病院の薬剤師の定員が制定される ●京都において第1回日本薬学大会開催。社団法人日本薬学会(以下、薬学会)解散総会開催
昭和24年5月 6月 7月		●15日、第1回薬剤師国家試験施行。学説・実地試験合格者2,276人(合格率:81.3%) ●厚生省の直轄試験研究機関として国立東京第一病院(現国立国際医療センター)内に病院管理研修所(病院管理研究所の前身)設立 ●1日、米国薬剤師協会使節団来日。30日、医薬分業の実施等を勧告
昭和25年7月 8月		●日薬、厚生省と共催で第1回「薬と健康の週間」実施 ●社団法人日本薬剤師協会設立(昭和23年以来の任意団体を改組)
昭和26年3月 4月 6月		●20年ぶりに日本薬局方(第6版)発行 ●東京大学(以下、東大)に製剤学教室、京都大学に薬剤学教室誕生 ●5日、医師・歯科医師法及び薬事法の一部を改正する法律(医薬分業法)公布。昭和30年1月1日施行
昭和27年4月 7月		●医薬品の配給統制撤廃 ●1日、東京都病院薬剤師協会たより第1号発行
昭和28年2月 4月	●6日、東京本郷・東大好仁会において第6回日本薬学大会に参加した病院勤務薬剤師が構内の好仁会に集まり、全国病院薬剤師全体会議開催。全国病院薬剤師協会設立決定。当時、都病薬をはじめ各地に幾つか病院薬剤師の団体が形成されつつあった。参加者は北海道1、栃木5、東京19、千葉4、神奈川5、新潟2、石川2、静岡1、岐阜1、愛知3、京都3、兵庫5、大阪8、岡山3、徳島1、愛媛1、福岡5、長崎2、熊本2、計73人。初代会長不破龍登代氏(事務所・三楽病院)。会員150人、会費20円	●28日、吉田茂首相衆議院予算委員会で社会党西村栄一議員の質問に対し「バカヤロウ」と発言。翌月14日、内閣不信任案が可決、即日衆議院を解散。世に言うバカヤロウ解散
昭和29年 3月 7月 9月	●全国各地に都道府県単位の病院薬剤師協会(以下、病薬)の設立を要請。全国組織づくりに力を注ぐ	●15日、ビキニ環礁で水爆実験によりマグロ漁船第五福竜丸が被爆。「死の灰」事件 ●7日、学校薬剤師設置法制化実現 ●26日、洞爺丸台風(台風15号)、死者・行方不明者1,761人、全半壊家屋2,074戸
昭和30年4月	●6日、東京神田駿河台・山の上ホテルにおいて日本病院薬剤師連合協会設立総会開催。日本病院薬剤師協会設立案が満場一致で可決。現在の日本病院薬剤師会(以下、日病薬)の前身日本病院薬剤師協会を設立、これを第1回総会とする。当時代議員会はなく各都道府県から	●8日、薬学会創立七十五年記念式典挙行 ●9日、東日本女子薬業婦人会結成。会長に秋島ミヨ氏選出

<p>5月 8月</p>	<p>代表1名の出席による総会が行われた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●理事会開催。会長不破龍登代氏(三楽病院)、副会長櫻井喜一氏(横浜市立大学(以下、横浜市大)病院)、青木大氏(大阪大学(以下、阪大)病院)、常任理事6人、理事11人、監事2人を選出。会員数3,789人、会費20円</li> <li>●27日、日病薬会則が日薬の理事会において承認。同日施行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●28日、ヘレン・ケラー女史3度目の来日。各地で講演</li> <li>●8日、医師法、歯科医師法及び薬事法の一部を改正する法律(医薬分業法)公布。医薬分業の原則が法制化</li> </ul>
<p>昭和31年4月 10月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●22日、日薬主催で調剤技術指数研究会が開催。新医療体系における調剤技術料の検討。本会から野上壽、宮崎順一両常任理事出席</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1日、医薬分業法施行</li> </ul>
<p>昭和32年2月 4月 10月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公務員薬剤師の職階制に対し、人事院、内閣官房、厚生省、日薬などに陳情</li> <li>●東京神田駿河台・山の上ホテルにおいて日病薬総会開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●5日、全国薬剤師連盟創立総会開催</li> <li>●14日、武見太郎氏日本医師会(以下、日医)会長に就任</li> <li>●4日、ソ連史上初の人工衛星「スプートニク1号」打ち上げ成功</li> </ul>
<p>昭和33年3月 4月 6月 7月 8月 10月 11月 12月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●7日、愛知名古屋・荒川ビルにおいて役員会および第4回総会開催。会長に不破龍登代氏(再選)、副会長櫻井喜一(再選)、掛見喜一郎の両氏就任。診療報酬点数に関して決議文が出された</li> <li>●30日、診療報酬点数が告示されるも、調剤料算定が10日分以上のみの制限は不合理として、7日分以上とする修正を日薬に申し入れる</li> <li>●新点数表に関して利害が一致する団体に加入決定。日本病院医療関係団体連合会に加入。同連合会10団体</li> <li>●5日、日病薬広報誌として「薬事新報」を創刊</li> <li>●9日、本会の依頼により、上野敬一氏は薬事新報社を設立</li> <li>●1日、甲乙2表による診療報酬制度施行</li> <li>●会員約5,000人(1.5倍)、会費30円</li> <li>●4日、東京銀座・交詢社ビルにおいて日病薬、日薬初の代表懇談会開催。医薬分業基礎理論などについて検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●9日、昭和12年着工後21年をかけた「関門トンネル」が開通</li> <li>●10日、学校保健法公布。学校薬剤師必置制実現</li> <li>●24日、阿蘇山大爆発、死者12人</li> <li>●8日、郵政会館において第1回日薬調剤技術委員会開催</li> <li>●25日、即席チキンラーメンが日清食品より35円で新発売。インスタント時代の幕開け</li> <li>●27日、明仁皇太子殿下と正田美智子様のご婚約発表。ミッチーブームとなる</li> <li>●1日、1万円札発行</li> <li>●27日、国民健康保険法公布。国民皆保険制度の基礎が確立</li> </ul>
<p>昭和34年1月 2月 3月 4月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●26日、東京日本橋本町・薬貿会館において第2回目の日病薬、日薬代表者懇談会開催。医薬分業問題は平行線をたどるだけで進展なく、特別委員会(社会保険医療報酬の検討)の構成が決定</li> <li>●日薬、日病薬との「社会保険診療報酬特別委員会」委員に櫻井喜一副会長と森川利秋、山田益城、上野高正、宮崎順一各理事が決定</li> <li>●4日、第1回社会保険診療報酬特別委員会開催。主な議題①甲2表の一本化、②処方せん料の問題など</li> <li>●7日、大阪・田辺製薬本社ホールにおいて第5回総会開催。代表者150人参加。主な議案①日病薬の今後、②甲表改正案、③調剤手数料の要望、④診療報酬点数表甲表中の調剤料の全面改定、⑤高野一夫氏の参議院議員選挙推薦 会費は年額100円(約3倍アップ)になる。執行部は留任し、副会長に松村久吉氏(九州大学(以下、九大)病院)が新たに加わった 会員名簿第1版が薬事新報社より発刊。総会の席で代表者に配布</li> <li>●薬剤部長会議開催。主な議題①新薬の標示、②医薬品に製造年月日を表示する件が採択</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1日、メートル法完全実施</li> <li>●薬剤師初任給は、税込み月額11,040円</li> <li>●12日、坂田道太氏厚生大臣就任</li> <li>●社団法人日本薬学会は昭和23年公法人日本薬剤師会と併合され、日薬学術部として運営してきたが改めて社団法人として再び独立</li> <li>●15日、営団地下鉄丸の内線全線開通</li> <li>●10日、明仁皇太子殿下と正田美智子様ご成婚。皇居から東宮仮御所まで馬車パレードTV中継</li> </ul>

年月	日病薬に関する出来事	社会の出来事
5月	●在京役員会開催。高野一夫氏再選へ本腰を入れるべく対策を検討。一層の努力を決定	
6月		●2日、高野一夫氏参議院議員に再選。335,201票 ●25日、プロ野球初の天覧試合。巨人長嶋茂雄選手が阪神村山実投手からサヨナラホームラン
8月	●病院薬剤師の日・当直に関する実態調査を実施 ●診療報酬特別委員会を開催。日薬と調剤料について協議	
9月	●在京理事会開催。主な議題①日薬改組案(病勤・開局などに再編)、②衛生検査技師法制定と資格、③人事院給与勧告	●26日、伊勢湾台風。全国の被害は、死者・行方不明者5,098人、負傷者38,921人、被害家屋83万3,965戸 ●日薬会員は26,943人で、そのうち勤務薬剤師は8,528人
10月	●17日、緊急在京役員会開催。主な議題①伊勢湾台風義援金、②薬事法改正、③給与勧告案の改定	
12月	●在京役員会開催。主な議題①給与対策、②給与に関する調査事項の検討、③徳島県病薬および九州山口薬学大会より決議文受理	
昭和35年1月	●各方面に薬剤師のインターン制を設けることを要望 ●厚生省薬事課長らと、薬事法改正の問題で不破龍登代会長ら17人が懇談	
2月	●25日、全国会長会議開催。日薬に勤務部会設置を働きかけることを決定	●23日、皇太子夫妻に第一子誕生。「浩宮」と命名 ●24、25日、日薬代議員会開催。主な議案①高野一夫会長を再選、②日薬改組について特別委員会で検討 ●3～6日、東京本郷・東大医学部講堂において第13回日本薬学大会開催。会頭に刈米達夫氏、大会委員長・野上壽氏
4月	●4日、東京大手町・産経ホールにおいて第6回総会開催。主な議案①日病薬総会のあり方、②医薬品購入価格の適正化実施要領など ●不破氏、医療制度調査会委員に、薬系代表で委嘱	
5月	●26日、第10回病院学会シンポジウム開催。「病院薬局管理」について不破、久保文苗、上野高正各氏が発表	
6月	●6日、緊急在京理事打合会議開催。主な議題①会則変更。総会を代議員会と改称、②給与問題など	●15日、安全保障条約反対闘争でデモ隊が国会突入、機動隊と衝突。東大生榊美智子さん死亡
7月	●薬剤師独自の給与表を作成。関係官庁に陳情する旨決定 ●29日、緊急理事会開催。国立病院の第二薬局問題の件。開設が盛んになるが、問題が多い	
8月	●日薬と帯同して国立病院勤務薬剤師の給与引き上げについて、人事院など関係方面に陳情	●10日、新薬事法・薬剤師法公布 ●日薬が給与実態調査実施。勤務薬剤師の男子平均月額は29,740円、民間が20%上回る
9月	●12日、日薬定款改正特別委員会開催。日病薬にも重要な点が多く、病薬委員として、梅田良三、氣多信雄、不破、野上壽各氏が出席	
10月	●12日、緊急在京役員会開催。日薬定款改正委員会の経過報告につき対策を協議	●12日、日比谷公会堂で演説中の浅沼福次郎社会党委員長がTV中継中に目の前で刺殺 ●東京女子医科大学病院(以下、東京女子医大)、東京慈恵会医科大学附属病院(以下、慈恵医大)、船員保険芝浦病院などで病院争議が起こる
11月		
昭和36年1月	●12日、東京池袋・三越会議室において会長会開催。日薬定款問題を最終決定すべく日薬定款小委員会に改正のやり直しを要求	
2月		●1日、新薬事二法施行。関係5政令(1月26日公布) ●19日、日医、一斉休診 ●3日、日医、保険医総辞退とりやめ
3月	●不破龍登代会長、厚生省薬事審議会(以下、薬事審)衛生特別委員に任命	
4月		●12日、ソ連はユーリ・ガガーリン少佐を乗せたボストーク1号の打ち上げ成功
6月	●会員名簿、各都道府県病薬宛に薬事新報社より発送	
7月	●19日、北海道札幌・自治会館において理事会開催。主な議題①日病薬の将来に対する方針の検討、②日薬改組問題について ●同日、同会場において第9回代議員会開催。主な議案①不破龍登代氏再選、②会費を100円から200円に値上げ	●31日、日医、8月1日を期し保険医総辞退回避
8月	●16日、社団法人化について、不破、森川利秋、久保文苗各氏は厚生省牛丸薬務局長らに陳情 ●厚生省薬事審議員に本会より、不破、野上壽、掛見喜一郎各氏を任命。日薬特別委員会委員に野上、森川両	●1日、大阪・釜が崎で群衆2,000人が暴動 ●13日、東ドイツ、ベルリンの壁を構築 ●人事院の一般国家公務員給与報告では、薬剤師の初任給は13,200円

9月	<p>氏就任</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 国公立病院薬剤師協議会(島津貴忠会長)は勤務薬剤師の待遇問題について日病薬に要望</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1日、日本赤十字社、愛の献血運動を開始</li> <li>● 16日、第二室戸台風、死者202人</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 診療報酬改定により処方せん料新設</li> <li>● 第二室戸台風災害相互扶助合同委員に宮崎順一理事を任命</li> <li>● 処方せん料5点が新設。院外処方せん発行に拍車がかかると警戒</li> <li>● 日薬定款小委員会が開催。氣多信雄、森川両氏が出席。副会長3人制に落ち着く</li> <li>● 不破会長と宮崎理事が薬事新報社上野敬一氏と面談。日病薬事務所を薬事新報社内に借用することを決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 18日、西ドイツのレント博士が新生児の四肢奇形は母親のサリドマイド服用が原因と発表</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1日、東京日本橋室町3丁目薬事新報社内に事務所を移転。専従職員として岡岡誠志氏採用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 散剤自動分包機が開発され普及し始める</li> <li>● 5日、ドイツの製薬会社よりサリドマイドの製造販売中止勧告</li> </ul>
昭和37年1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 6日、東京本郷・園田において全国会長会議開催。主な議題①日薬定款改正問題、②職能部会、③役員選出、④会費の件、⑤附帯決議事項など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 米国でドラッグ・インフォメーション活動開始</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 薬事新報社より4月に日本病院薬剤師協会年報発行が決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1日、東京都の常住人口一千万人を突破(世界初の1,000万都市)</li> <li>● 23、24日、日薬第16回通常代議員会開催。主な議案①「社団法人日本薬剤師会」と名称変更、②会員は正会員、賛助会員の2種で正会員は薬剤師のみとした</li> <li>● 東大病院薬局に我が国初の医薬品情報(以下、DI:ドラッグインフォメーション)室設置</li> </ul>
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 5日、神奈川横浜・ニューグランドホテルにおいて全体理事会開催</li> <li>● 同日、神奈川横浜・神奈川県立勤労会館において第10回代議員会開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 12日、冒険家堀江謙一さん(23)が小型ヨット「マーメイド号」で94日間で太平洋横断</li> <li>● 社団法人日本薬剤師協会を社団法人日本薬剤師会と改称認可</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社団法人化研究委員会発足。委員長福澤壽氏</li> <li>● 第1回薬事研修会開催(薬事新報社主催)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東京本郷・東大において第1回国公私立病院薬剤部職員研修会開催</li> <li>● 18日、大日本製薬がサリドマイド回収を決定</li> <li>● 22日、米国ケネディ大統領はソ連のキューバミサイル基地建設に対し、海上封鎖(キューバ危機)</li> </ul>
7月		
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東京銀座・交詢社ビルにおいて第1回調剤技術委員会開催。宮崎順一、森川利秋、久保文苗の各氏ら18人が参加。主な議題①委員長は櫻井喜一氏に決定、②調剤指針の改訂発行へ</li> </ul>	
9月		
10月		
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 8日、「薬事新報」週刊発行となる</li> </ul>	
昭和38年2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 8日、東京新宿・三福会館において全国会長会議・全体理事会合同会議開催</li> <li>● 21日、日薬第17回通常代議員会開催。不破龍登代氏が副会長に推挙</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 10日、東京女子医大の薬剤部員14人辞表提出。森川薬局長も4月末日、退職</li> </ul>
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2日、東京本郷・医科器械会館において病院薬局用機械器具総覧契約および打ち合わせ会議開催</li> <li>● 6日、石川金沢・繊維会館において第11回代議員会開催</li> <li>● 7日、不破龍登代会長、日薬賞受賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 20日、米ソ、直通通信(ホットライン)協定調印</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 在京役員会開催。主な議題①医療制度改善の基本方針、②日病薬副会長および常任理事選考方法、③社団法人化、④研修会など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 11日、老人福祉法公布</li> <li>● 製薬業界で、東京に医薬品安全性対策懇談会が、大阪に医薬品安全対策委員会が設置</li> <li>● 18日、小林武治氏厚生大臣就任</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 4日、東京女子医大薬剤師辞職問題につき、厚生省記者クラブにおいて声明書発表。退職者見舞金を募集</li> <li>● 26日、国家公務員薬剤師の給与改善要望方を、日薬、日病薬など7団体から、国会、厚生省、人事院などに陳情書提出</li> </ul>	
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 20日、日本薬科機器協会創立。東京での発会式に不破、野上壽、宮崎順一各氏が出席</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 22日、米国ケネディ大統領がダラスでパレード中に銃撃暗殺。初のテレビ宇宙中継で放送中のこと</li> </ul>
11月		
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 5日、東京日本橋本町・薬貿会館において在京理事会開催。主な議題①社団法人化推進特別委員会設立が決定、②基金積立など</li> </ul>	

年月	日病薬に関する出来事	社会の出来事
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●20日、東京本郷・東大薬学部記念講堂会議室において在京臨時理事会開催。主な議題①会長会議、②職能部会、③機関誌発行、④社団法人化の件など</li> <li>●23日、日薬高野一夫会長と野上、上野高正、宮崎各氏は保険点数問題について懇談</li> </ul>	
昭和39年1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●25日、東京青山・健保会館において全国会長会議・全体理事会合同会議開催。主な議題①社団法人化に対する資金募集、②社会保険の診療報酬のうち甲表投薬料の調剤料、加算単位の変更についての要望書の件など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●グロンサン有害論が起こり、中外製薬社長、共同記者会見を開く</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●13～20日、東京新宿・戸山町厚生省病院管理研究所において厚生省病院管理研究所と日病薬の共催で第1回病院薬局管理研修会開催。当初、300床以上の病院薬局長を対象とした</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日薬代議員会開催。会費値上げ案可決。開局薬剤師4,000円、病院勤務薬剤師1,300円</li> </ul>
3月		<ul style="list-style-type: none"> <li>●医薬品の自由化率96.5%になる</li> </ul>
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●3日、東京平河町・日本都市センターにおいて第12回代議員会開催。日病薬社団法人化に関する議題が中心。会則第1条を変更、会の名称が「日本病院薬剤師会」となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●28日、日本、経済協力開発機構(OECD)に加盟</li> </ul>
6月		<ul style="list-style-type: none"> <li>●米国で始まったDI活動が我が国でも取り上げられ普及し始める</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●10日、日病薬ニュース第1号発刊</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●16日、新潟地方に大地震発生</li> </ul>
10月		<ul style="list-style-type: none"> <li>●1日、東京-大阪間東海道新幹線開通</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●16日、事務所を東京日本橋室町の薬事新報社から独立して、文京区向ヶ丘1-1-3に移転</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●10日、東京オリンピック開催。金16、銀5、銅8のメダル獲得</li> </ul>
昭和40年1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●24日、東京新宿・三福会館において全国会長会議・全体理事会合同会議開催。主な議題①事務所移転に伴う会則の変更、②会費を200円から400円に値上げを検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●24日、英国チャーチル元首相没(90歳)</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日薬、病診職種部会役員決定。部会長・掛見喜一郎氏、副部会長・櫻井喜一、上野高正、久保文苗の各氏</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●7日、解放戦線の攻撃により米兵85人死傷。米国は報復攻撃として北ベトナムを爆撃</li> </ul>
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●4日、福岡・天神ビルにおいて第13回代議員会開催。主な議題①会費値上げ(年会費400円)、②薬剤師届出第9条の改正方要望など</li> <li>●不破龍登代会長は日本薬学会功労賞、野上壽理事は日薬賞を受賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●19日、アンブルかぜ薬が問題となり販売自粛</li> <li>●4～7日、第20回日本薬学大会(福岡)でシンポジウム「病院診療所におけるDI活動」が開催。我が国のDI元年になる</li> <li>●国立世田谷病院(昭和37年2月廃止)は我が国初の小児総合医療施設である国立小児病院に転換</li> <li>●22日、日韓基本条約調印</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●23日、理事会開催。第二薬局問題で日薬の見解を求める</li> </ul>	
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●20日、日薬会長選につき日病薬は要望書を日薬臨時代議員会に提出。さらに業界紙に声明書発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●24日、国鉄「みどりの窓口」営業開始</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●21日、東京本郷・東大好仁会において理事会開催。病薬系日薬新常務理事として、日病薬からは福澤壽、山田益城、津田一太郎、宮田栄子の各氏を決定</li> <li>●学術委員会開催。第3回病院管理研修会の「処方と薬剤管理」など協議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●28日、日薬臨時代議員会開催。新会長に武田孝三郎氏</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●25日、日本病院薬剤師会々誌(以下、日病薬誌)第1巻第1号発刊</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●8日、アンブル入り内服用解熱鎮痛剤製造販売中止</li> </ul>
12月		<ul style="list-style-type: none"> <li>●8日、東京永田町・薬業健保会館において日薬は職能推進調査特別委員会開催。医薬分業推進の具体策について検討</li> </ul>
昭和41年1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●23日、東京・東京文化会館において全国会長・全体理事会合同会議開催。大阪府病薬より日薬に提議された病院調剤所の薬事法薬局化について紛糾</li> </ul>	
2月		<ul style="list-style-type: none"> <li>●航空機事故続発。4日、全日空機東京湾に墜落</li> </ul>
3月		<ul style="list-style-type: none"> <li>●4日、カナダ太平洋航空機、羽田空港に着陸失敗炎上</li> </ul>
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●5日、富山・県民会館において第14回代議員会開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●5日、英国海外航空機富士山上で空中分解</li> <li>●7日、虎の門病院上野高正薬剤師部長の発表した調剤エラーの調査結果報告が目ざされ、一般紙で大きく取り扱われる</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●26日、国立病院関係団体より人事院総裁へ薬剤師の待遇改善で要望書提出</li> </ul>	

7月	●18日、理事会開催。主な議題①医薬分業促進対策、②アジア薬学大会(後のアジア薬学連合学術大会(以下、FAPA))の件など	
8月		●15～19日、東京平河町・砂防会館において第1回FAPA開催。参加23ヵ国、海外より約300人、国内より約750人参加 ●18日、北京・天安門広場において文化大革命勝利祝賀大会。紅衛兵100万人集結 ●第11回太平洋学術会議の薬学部に初参加
9月	●17～24日、FIP総会出席のため、不破龍登代会長、福岡県病薬堀岡正義会長がマドリッドへ出発	
12月	●東京医薬品工業協会(以下、東薬工)会報の内容につき、日本製薬団体連合会(以下、日薬連)に勧告書提出	●3日、坊秀男氏厚生大臣就任
昭和42年2月	●5日、全国会長会議・全体理事会合同会議開催。主な議題①医薬品購入価格適正化、②医薬分業推進など	●6日、米国、ベトナムで枯葉作戦開始 ●11日、初の建国記念日 ●23、24日、東京永田町・薬業健保会館において日薬代議員会開催。主な議案①分業実施の推進、②会の組織と活動の強化など、③会費に関する定款の一部改正について ●15日、共産党推薦美濃部亮吉氏東京都知事選挙において当選
4月	●6日、京都・京都ホテルにおいて第15回代議員会開催。第二代会長に高木敬次郎氏(東大病院)、副会長山田益城、上野高正、青木大の各氏就任。不破龍登代会長は顧問に、福澤壽、宮崎順一両前副会長を名誉会員に推薦することが決定	
5月	●23～26日、医療職公務員給与改善要望書を坊厚生大臣および佐藤人事院総裁に提出	
7月	●7日、厚生省薬務局長坂元貞一郎氏より、局方改正に関し会長宛意見の有無を打診 ●11日、新役員による第1回在京理事会。高木会長、山田、上野両副会長、他理事が出席	●1日、欧州共同体(EC)発足
8月	●放送企画委員会は日本短波放送の「病院薬剤師の時間」を計画。10月から放送決定	
9月	●4日、庄司達雄福島県病薬会長は先月11日に福島県の公立病院で看護婦が笑気ガスを酸素と間違え患者が死亡した件で緊急常任理事会で説明をするため上京 ●厚生省の臨床診断薬対策研究班長に不破龍登代顧問就任	●1日、四日市ぜんそく患者、初の大気汚染公害訴訟
10月	●4日、日本短波放送で「病院薬剤師の時間」が毎週水曜日21時15分から30分、放送開始 ●31日、日本薬局方改正に答申を提出	●20日、吉田茂元首相没(89歳)。31日、国葬
昭和43年1月	●14日、東京西新宿・東京ヒルトンホテルにおいて全国会長会議・全体理事会合同会議開催。主な議題①社会保険診療報酬制度抜本改正対策案、②日病薬社団法人化に関する問題、③日病薬事務局の強化、④会費値上げなど	
3月		●人事院、昭和42年4月の給与調査発表。薬剤師初任給は25,980円、平均(32歳)で45,000円、薬局長は43歳で83,000円 ●16日、北ベトナムのソンミで米軍による大量虐殺(ソンミ事件) ●4日、米国の黒人運動指導者キング牧師暗殺 ●5日、日薬創立七十五周年記念式典挙行(天皇陛下ご臨席) ●12日、東京・霞ヶ関ビル完成 ●厚生省、昭和41年度末現在の調査発表。薬剤師数7万、医師数11万人
4月	●4日、東京麹町・東條会館において第16回通常代議員会開催。主な議案①不破龍登代前会長に感謝状贈呈および名誉会長委嘱、②日病薬の社団法人化推進、③薬剤料算定方法、④会則の変更など	●16日、午前9時48分、十勝沖地震発生。死者52人 ●薬学会は薬剤学委員会開催。3小委員会を設けることを決定。①薬学会年会(高木敬次郎氏)、②薬剤部長会(上野高正氏)、③薬剤学の編集(野上壽氏) ●23日、明治百年記念式典挙行
5月	●15日、日薬に、病院薬局の法制化実現などで申し入れ	
6月		
10月		
昭和44年1月	●7日、東京・白金迎賓会館において在京理事会開催。分業資金カンパの件など検討 ●25日、東京虎ノ門・薬会館において全国会長会議・全体	●18日、東京本郷・東大安田講堂に立て籠もっていた全学共闘会議の学生を機動隊が実力で強制排除

年月	日病薬に関する出来事	社会の出来事
2月 4月	<p>理事会合同会議開催。主な議題①分業推進の件、②海外交流の件など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●19日、日本医薬分業推進同盟へ100万円納入</li> <li>●3日、愛知名古屋・名鉄グランドホテルにおいて第17回代議員会開催。主な議案①会長に高木敬次郎氏(再任)、②専務理事制など採択。緊急動議として、①病院薬局の法制化の断行、②調剤料の適正評価と甲・乙表、③保険薬局の技術料一本化の推進を決議採択</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●4日、PLO、アラファト議長選出</li> </ul>
5月 6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●17日、富山県病薬二十周年記念式典に高木会長出席。日病薬の現状について講演</li> <li>●新執行部決定。副会長に山田益城、上野高正(留任)、永瀬一郎(新任)の各氏就任</li> <li>●24日、東京日本橋本町・東京薬業会館においてDIパンチカード委員会が日本新薬協会・東薬工とパンチカードの説明会開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●経済企画庁、昭和43年の日本のGNPは西側諸国で第2位と発表</li> </ul>
7月 9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1日、事務局人事、会誌発行に伴い編集作業のため興梠忠夫氏を採用、両岡誠志氏は主事に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●20日、米国のアポロ11号、月面着陸</li> <li>●3日、ベトナム民主共和国ホー・チ・ミン大統領没(79歳)</li> <li>●スモンの原因物質との疑いがもたれているキノホルム含有製剤が販売中止</li> </ul>
10月 11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中央薬事審一般薬特別部会委員に高木、上野両氏就任</li> <li>●7日、調剤技術料の適正評価と甲・乙表の一本化で中央社会保険医療協議会(以下、中医協)各委員に要望書提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本抗生物質医薬品の新基準決定。収載831品目</li> <li>●1日、新500円札(岩倉具視)発行</li> <li>●厚生白書で薬剤師総数72,000余、病診勤務者は16.9%と発表</li> </ul>
昭和45年1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中医協、診療報酬改定を答申。調剤加算3倍に引き上げ</li> <li>●DIパンチカード委員会が東京医薬品工業協会と懇談。メーカー側が院内DI系の設置を要望</li> </ul>	
2月 3月		<ul style="list-style-type: none"> <li>●45年度厚生省予算、1兆円を突破</li> <li>●14日、大阪吹田市・千里丘陵において日本万国博覧会開幕</li> <li>●31日、日本赤軍派学生たちによる日航よど号ハイジャック。犯人たちは北朝鮮へ亡命</li> </ul>
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●15日発行の日病薬誌第6巻第1号より会誌名変更「Journal of the Nippon Hospital Pharmacists Association」</li> <li>●25日、元副会長青木大氏逝去</li> </ul>	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●開局者の研修、新任者教育についてアンケート調査実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●野上壽氏、薬学会会頭に就任</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2日、東京本郷・東大好仁会において在京常任理事会開催。病診薬局法制化の最終具体案を検討</li> <li>●27日、北海道札幌・札幌グランドホテルにおいて第18回通常代議員会開催。主な議案①抜本改正病院薬局法制化に関する具体案提示、②高林康盛ら9氏を名誉会員に委嘱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●18日、東京・杉並区で高校生40人がグランドで倒れる。光化学スモッグ公害</li> <li>●厚生省、新薬価基準を告示。収載7,185品目、下げ幅3パーセント</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●福岡県病薬が日病薬に渉外委員会設置を再要望</li> <li>●18日、法人化問題で日病薬正副会長会議開催。法人化促進委員会の設置を決定し、9月17日発足</li> </ul>	
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●10日、北陸信ブロック会長会議開催。日病薬本部へ麻薬管理手当など4件を要望</li> <li>●22日～10月27日、上野高正副会長、日本生産性本部の医療保険制度視察団員として渡欧</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●7日、中央薬事審議会在がキノホルム製剤の販売中止を答申</li> <li>●24日、日薬会長武田孝三郎氏逝去</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●14日、不破龍登代初代会長、薬事功労で厚生大臣賞受賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●3日、日本医薬情報センター創立総会開催。久保文苗氏が所長に就任</li> <li>●25日、作家三島由紀夫氏、市ヶ谷の自衛隊本部で決起を呼びかけ。その後割腹自殺(45歳)</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●5日、米国からW.E.スミス氏日病薬の招きで来日。14日、東京本郷・東大薬学記念講堂において「アメリカにおけるDIと臨床薬学」を講演</li> <li>●10日、日薬会員委員会開催。日病薬の法人化について協議。態度を保留</li> <li>●15日、全国会長会議・全体理事会合同会議開催。法人化の協力推進を決定</li> </ul>	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●15日、日病薬法人化推進委員会開催。次年度2月中旬に申請書提出を決定</li> <li>●厚生省、調剤薬局実態調査で日病薬に依頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1日、石館守三氏、日薬新会長に就任</li> </ul>
昭和46年1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日薬基本方針協議会開催。上野高正副会長、日病薬の現状、日薬に対する考え方など答弁。日薬に対する不信感を訴える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●厚生省、病院・診療所(以下、病診)勤務薬剤師13,729人と発表</li> </ul>

<p>2月</p> <p>3月</p> <p>4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>9月</p> <p>10月</p> <p>11月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●6日、東京・薬業健保会館において社団法人日本病院薬剤師会設立総会開催</li> <li>●薬剤の品質・安全管理料などの加算請求の要望を日薬に説明</li> <li>●日病薬誌を月刊で発行</li> <li>●25日、薬品管理料などの設定で日病薬が厚生省、中医協へ要望書提出</li> <li>●26日、社団法人化促進特別委員会が東京都に社団法人申請書提出</li> <li>●1月23日に沖縄県病薬が発足。日病薬加入を勧誘</li> <li>●1日、日病薬法人化に関し日薬と覚書を交わす。覚書要旨、1)日病薬会員は原則として日薬会員となる、2)日薬は日病薬の活動に全面的に協力する、3)日病薬は日薬を、日本における唯一の薬剤師職能の代表団体であることを確認する</li> <li>●6日、福岡博多・ホテルステーションプラザにおいて第19回代議員会開催。米国からDr. J. A. Oddis氏を招く</li> <li>●9日、東京南青山・健保会館において都病薬総会開催。高木敬次郎会長が地方病薬の法人化を要請</li> <li>●24日、公務員薬剤師の待遇改善で特一級の設置を人事院、厚生省、自治省へ要望</li> <li>●5日付で厚生大臣が日病薬社団法人化を許可</li> <li>●15日付で「社団法人日本病院薬剤師会」設立</li> <li>●28日、東京本郷・東大好仁会において医療保険制度抜本改正対策特別委員会開催。「入院患者の薬学管理料」について検討</li> <li>●6日、理事会において初代専務理事に森川利秋氏を任命</li> <li>●同日、「社団法人日本病院薬剤師会」として東京大手町・農協ビルにおいて第1回通常代議員会・総会開催。新定款などを承認</li> <li>●30日、薬学管理料の設定で日薬に要望</li> <li>●「薬学管理料、患者1名1日74円」日病薬が薬学管理料の説明資料まとめる</li> <li>●6、7日、東京北新宿・東京薬科大学図書館講堂において第1回関東ブロック学術大会開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全国診療所薬剤師協議会が日薬の「病診薬局法制化試案」に関する要望書提出</li> <li>●1日、第8改正日本薬局方公布</li> <li>●厚生省、有機塩素系殺虫剤 (DDT、BHC) の製造中止を指示</li> <li>●1日以降、日医が保険医総辞退。全国で7万人</li> <li>●10日、NHK総合テレビ、全カラー化</li> </ul>
<p>昭和47年1月</p> <p>2月</p> <p>3月</p> <p>4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>9月</p> <p>10月</p> <p>11月</p> <p>12月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●28日、会誌の第三種郵便物認可通知受理</li> <li>●6日、東京大手町・農協ビル国際会議室において全国会長会議・全体理事会合同会議開催。中小病院対策と教育の2委員会設置</li> <li>●15日、病診薬局法制化で日薬に要望書提出</li> <li>●29日、東京本郷・東大好仁会において緊急常任理事会開催。薬学会年会の諸問題を検討</li> <li>●22日、東京本郷・東大好仁会において常任理事会開催。高木敬次郎会長辞意表明</li> <li>●定款改正特別委員会が会務執行5部、5委員会制を会長に答申</li> <li>●4日、大阪・新阪急ホテルにおいて第2回通常代議員会・総会開催。会長に上野高正氏、副会長永瀬一郎、櫻井喜一、中野久壽雄各氏就任。高木前会長は顧問に</li> <li>●24日、新築された薬学会館に事務局を移転</li> <li>●15日、沖縄本土復帰に伴い沖縄県病薬 (34人) が日病薬に加入</li> <li>●薬事制度委員会が本年度運動方針として、1) 調剤技術料の一本化、2) 薬学管理料新設を打ち出す</li> <li>●会員委員会、会員の意識調査実施</li> <li>●23日、学術・教育合同委員会開催。独自の研修会開催を検討</li> <li>●5日、中小病院対策委員会、地方の実態調査実施</li> <li>●12日、東京渋谷・薬学会館において理事・地区会長合同会議開催。「病院診療所調剤所の法制化の方式」を提示</li> <li>●11日、「入院時薬学的管理技術料・入院患者1名1日130円」で日薬に意見具申</li> <li>●秋の叙勲で櫻井副会長が藍綬褒章を受章</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2日、グアム島で元日本兵横井庄一さん31年ぶりに救出</li> <li>●3日、冬季オリンピック札幌大会開催</li> <li>●19日、連合赤軍のメンバーが河合楽器の浅間山荘に立て籠もり、警察隊が突入。人質救出</li> <li>●13日、スモン調査研究協議会、「スモン病はキノホルム剤服用による」と結論発表</li> <li>●11日、田中角栄首相、政権構想として「日本列島改造論」を発表</li> <li>●17日、米国、ウォーターゲート事件発覚</li> <li>●29日、日中国交正常化。北京において田中角栄首相、大平正芳外相と中国の周恩来首相が姫鵬飛外相の間で日中共同声明に署名</li> <li>●5日、上野動物園でパンダ初公開</li> <li>●1日、財団法人日本医薬情報センター設立</li> </ul>

年月	日病薬に関する出来事	社会の出来事
昭和48年1月	●26日、労働大臣より無料職業紹介業務認可	
2月	●13日、事務局主事岡岡誠志氏逝去	
	●18日、東京大手町・農協ビルにおいて全国会長会議・全体理事会合同会議開催	
4月	●4日、東京大手町・日本経済団体連合会館において第3回通常代議員会・総会開催。会費年額1,800円に改定	●8日、画家パブロ・ピカソ没(91歳)
5月	●18～28日、(うち6日間)第3回ホスピタルショウに日病薬が参加。「薬の歴史」で病院薬剤師をパネルで紹介	
6月	●21日、公務員薬剤師の待遇改善で人事院、厚生省へ1)単独給与表の作成、2)特1等級の設定を要望	●8日、韓国金大中元大統領候補、KCIA(韓国中央情報部)により東京のホテル滞在中に拉致
7月	●20日、錠剤鑑別法特別委員会「錠剤鑑別事典第1版」発行	●9日、人事院、国家公務員給与を勧告。1)医療2表に特1等級を新設、2)薬剤師初任給は54,600円
8月		●6日、第4次中東戦争勃発。石油危機からモノ不足でトイレトペーパーがなくなる
10月		●14日、医師会、全国医師会大会開催。中医協解体を要求
11月	●27日、上野高正会長が交通事故で虎の門病院に入院。櫻井喜一・中野久壽雄両副会長見舞のため訪問	●厚生省、医薬品の再評価第1弾公表。精神神経・抗菌剤20品目が有効根拠なし
	●10日、中小病院対策委員会、「薬剤部(薬局)業務基準案」作成	
	●13日、入院時薬学的管理技術料の算定法を厚生大臣に提示。入院患者1名1日あたり140円を要望	●斉藤邦吉厚生大臣が「医薬分業5年後を目途に」と談話を発表
12月	●渉外委員会が東薬工と製造年月日表示問題で会見	●10日、江崎玲於奈氏、エサキ・ダイオードの発明でノーベル物理学賞受賞
	●18日、技術の適正評価で日病薬が厚生大臣に要望	●31日、中医協2年ぶりに診療報酬改定を答申。調剤報酬19%引き上げ
昭和49年1月	●14日、東京渋谷・薬学会館において定款改正特別委員会開催。昭和50年度改正を目途に定款を検討	●21日、薬価基準改定告示。収載7,119品目
2月	●1日、大場正三氏(理事)が初代事務局長として初出勤	
	●2日、東京渋谷・薬学会館において第1回「病院薬学セミナー」開催。全国から241人参加	
	●3日、東京渋谷・薬学会館において昭和48年度全国会長会議・全体理事会合同会議開催。主な議題①薬学教育と病院薬局、②中医協対策、③ブロック再編成の件	
3月		
4月	●6日、宮城仙台・仙台ホテルにおいて第4回通常代議員会・総会開催。上野高正会長辞任により会長選を行い会長に櫻井喜一氏選出、副会長山田益城、中野久壽雄、永瀬一郎各氏選出。福岡県病薬代議員より緊急動議として、病院診療所薬剤師の技術評価について診療報酬上に、①調剤技術料、②入院時薬学的管理技術料の新設の実現を要望する決議を採択	●12日、フィリピンのルバング島で元日本兵小野田寛郎少尉救出され帰国
	●26日、日薬第30回通常総会開催。森川利秋専務理事、古川正常任理事が日薬功労賞を受賞	●11日、空前の交通スト。国鉄全面運休
6月	●30日、「新任薬剤師のための病診薬局ハンドブック初版」発行	
8月	●6日、代議員会決議により厚生大臣宛に、診療報酬上の1)調剤技術料、2)入院時薬学的管理技術料の適正評価の2項について決議文提出	●8日、米国ニクソン大統領がウォーターゲート事件で辞任
9月	●25日、処方せん料大幅引き上げによる医薬分業の進展に伴う中小病院、診療所勤務薬剤師の離職などに関して救済措置を日薬に依頼	●厚生省、医薬品の製造および品質管理に関する基準(GMP)制定通知
10月	●1日、診療報酬改定により処方せん料10点から50点に一挙引き上げ実施	
	●7日、元副会長宮崎順一氏逝去	●23日、日本医科大学の丸山千里氏、丸山ワクチンを発表
11月	●22日、東京渋谷・薬学会館において昭和49年度全国会長会議・全体理事会合同会議開催。主な議題①事務局移転、②会費改定、③定款変更の件	

<p>昭和50年2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 10月 11月 12月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●6日、理事会開催。「病院薬学」の発行などについて協議</li> <li>●副作用情報伝達制度の発足に伴い、院内医師への情報伝達について会長名で各病院薬剤部長に協力要請</li> <li>●3日、大阪・新阪急ホテルにおいて第5回通常代議員会・総会開催。主な議案①会費を1,800円より3,000円に値上げ、②定款十数箇所を変更</li> <li>●「病院薬学」を日病薬誌のサイエンティフィック・エディションとして創刊決定。日病薬誌の「一般論文」は廃止、「会員報告」として投稿募集</li> <li>●19日、厚生大臣に代議員会決議による1)調剤技術料、2)入院時薬学的管理技術料の新設を要望</li> <li>●20日、「病院薬学」第1巻第1号発行(季刊)</li> <li>●25日、定款一部変更許可</li> <li>●15日、薬学生等の病院見学実習受入実態調査実施。全国400施設</li> <li>●20日、「新任薬剤師のための病診薬局ハンドブック第2版」発行</li> <li>●21日、東薬工および大阪医薬品工業協会に、1)医薬品に製造年月日の表示、2)外装表示の統一化、3)錠剤、カプセル剤識別コード表作成の協力依頼の3点を要望</li> <li>●14日、日薬石館守三会長らと日病薬櫻井喜一会長らによる日薬組織問題についてトップ会談</li> <li>●20日、日病薬賠償責任保険制度発足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●10日、山陽新幹線、博多まで完全開通</li> <li>●12日、厚生省、第1回の中国残留日本人孤児公開調査</li> <li>●5日、中華民国蒋介石主席没(87歳)</li> <li>●30日、ベトナム戦争終結。南ベトナム消滅</li> <li>●7日、英国エリザベス女王来日</li> <li>●4日、クアラルンプールで日本赤軍米国外使館占拠。過激派7人の釈放要求</li> <li>●全国の薬剤師数94,362人中、女子薬剤師数が50.9%と過半数となる</li> </ul>
<p>昭和51年2月 4月 5月 8月 9月 10月 11月 12月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●10日、東京渋谷・薬学会館において昭和50年度全国会長会議・全体理事会合同会議開催。会費値上げなどについて協議</li> <li>●4日、愛知名古屋・名鉄グランドホテルにおいて第6回通常代議員会開催。会長に永瀬一郎氏、副会長は別途選考委員会において推薦(齋藤太郎、伊藤誠二、幸保文治各氏)し、後日、代議員会議長に報告。監事に丸谷芳司、川邑年四郎両氏を選出</li> <li>●27日、東京渋谷・薬学会館において理事会開催。日本病院薬剤師会賞(以下、日病薬賞)・病院薬学賞表彰制度発足。第1回選考委員会開催</li> <li>●28日、「病院薬学」を学術雑誌(第四種郵便)として郵政省に申請</li> <li>●29日、第6回通常総会開催。第1回日病薬賞に不破龍登代、高木敬次郎、上野高正各氏、病院薬学賞に野上壽、櫻井喜一両氏を表彰</li> <li>●28日、日薬とトップ会談。調剤料などについて協力要請</li> <li>●4日、事務局長大場正三氏、会務中に倒れ、11月末日をもって退職。後任は山田栄一氏</li> <li>●20日、「新任薬剤師のための病診薬局ハンドブック第3版」発行</li> <li>●23日、専務理事森川利秋氏、執務中に倒れ急逝</li> <li>●19日、東京渋谷・薬学会館において昭和51年度全国会長会議・全体理事会合同会議開催。望月正作氏の参議院議員選挙立候補を確認</li> <li>●25日、錠剤鑑別法委員会「錠剤鑑別事典改訂版」発行</li> <li>●1日、米国病院薬剤師会会長Dr.Beste来日。大阪府薬業主催のOHP研修会において「米国の臨床薬学について」講演</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●6日、米国上院でロッキード社コーチャン副会長が日本政府高官に賄賂を贈ったと証言</li> <li>●第9改正日本薬局方(キノホルム、クロロキン削除)公布</li> <li>●5日、北京で群衆と軍警察が衝突。第一次天安門事件</li> <li>●20日、ロッキード事件で佐藤孝行元運輸政務次官、21日、橋本登美三郎元運輸相逮捕</li> <li>●6日、ソ連ベレンコ少尉、最新鋭戦闘機ミグ25で北海道函館空港に着陸。米国に亡命</li> </ul>
<p>昭和52年4月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●4日、東京大手町・日本経済団体連合会館において第7回通常代議員会開催。副会長に浅田洸、柴田一雄、幸保文治各氏就任。 日病薬賞の副賞としてのバッジ製作のため、本会シンボルマークを定めた。以後会誌、封筒などに使用。散剤を包んだ五角形の薬包紙を逆さまにしたデザイン</li> <li>●28日、東京渋谷・薬学会館において昭和52年度地方連絡協議会(旧全国会長会議・全体理事会合同会議)開催</li> <li>●同日、同会場において第7回通常総会開催</li> </ul>	

年月	日病薬に関する出来事	社会の出来事
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1日、「新任薬剤師のための病診薬局ハンドブック第4版」発行</li> <li>●25日、中小病院対策委員会で「一人勤務薬剤師の実態調査」の集計結果を日病薬誌第13巻第9号に掲載。一人勤務薬剤師施設の不安、悩みが浮き彫りに</li> </ul>	
昭和53年1月 2月 3月 4月 5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●17日、診療報酬に病院薬剤師の技術料として「調剤技術基本料」外来患者1名につき1回5点が新設</li> <li>●20日、錠剤鑑別法委員会「医薬品識別コード一覧'78」発行</li> <li>●2日、岡山・岡山福祉会館において第8回通常代議員会開催。来賓、厚生省薬務局本橋信夫審議官、薬学会小山鷹二副会頭、日薬石館守三会長。薬科大学の教育年限延長などについて討議</li> <li>●18日、東京渋谷・青学会館において昭和53年度地方連絡協議会開催。主な議題①中小病院の一人薬剤師問題、②薬剤師休業時の対策にOB女子薬剤師を活用など</li> <li>●同日、同会場において第8回通常総会開催</li> <li>●20日、「病診薬局ハンドブック第5版」発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1日、薬価基準改正。統一限定方式から銘柄別収載方式に変更</li> <li>●20日、成田に新東京国際空港開港</li> </ul>
昭和54年3月 5月 8月 9月 10月 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●3日、東京渋谷・薬学会館において昭和53年度第2回地方連絡協議会開催。主な議題①55年に京都で開催されるFAPAは日薬石館守三会長がFAPA会長を務めることからその協力体制などについて協議、②感謝状贈呈制度発足。その贈呈規程制定</li> <li>●20日、「新任薬剤師のための病診薬局ハンドブック第6版」発行</li> <li>●27日、北海道札幌・北海道厚生年金会館において第9回通常代議員会開催。調剤技術基本料の引き上げについて福岡、京都、愛知各府県より要望があり、討議の後1日10点を要望決定</li> <li>●同日、同会場において第9回通常総会開催</li> <li>●21～24日、ニュージーランドのクインズタウンにおいて第1回汎太平洋臨床薬学会議(PP1)開催。日病薬会長正式招待、福地坦理事代理出席</li> <li>●8日、本会顧問谷口是巨氏衆議院議員選挙において再選</li> <li>●20日、元副会長山田益城氏逝去</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●28日、米国スリーマイル島原子力発電所で放射能漏れ事故発生</li> <li>●1日、法律第55号医薬品副作用被害救済基金法公布</li> <li>●26日、韓国朴正熙大統領、側近に射殺される</li> <li>●26日、世界保健機関(以下、WHO)、天然痘の根絶宣言</li> <li>●24日、ソ連、アフガニスタンに侵攻</li> </ul>
昭和55年2月 3月 4月 6月 7月 8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●3日、大阪・大阪科学技術センターにおいて第1回近畿ブロック学術大会開催</li> <li>●8日、東京渋谷・薬学会館において昭和54年度地方連絡協議会開催。主な議題①FAPA準備状況、②病院診療所薬剤師研修会の開催計画、③病院薬局協議会など</li> <li>●10日、「新任薬剤師のための病診薬局ハンドブック第7版」発行</li> <li>●2日、東京大手町・日本経済団体連合会会館において第10回通常代議員会開催。主な議題①インタビューフォームの形式統一を製薬会社に要望する件、②調剤技術基本料算定に関する基礎資料調査の件、③薬物体内濃度測定業務について、④医薬品の命名法の統一を要望する件など</li> <li>●5日、東京渋谷・薬学会館において昭和55年度第1回地方連絡協議会開催。主な議題①FAPAの開催、②第二薬局の増加に伴い第二薬局の会員の資格・特別会員について協議。各都道府県病薬と都道府県薬の関係などを考慮し引き続き検討事項となる</li> <li>●同日、同会場において第10回通常総会開催</li> <li>●同日、同会場において日本病院薬剤師会創立二十五周年記念・社団法人化十周年記念式典挙行</li> <li>●1日、錠剤鑑別法委員会「錠剤鑑別事典第3版」発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●12日、現職の内閣総理大臣大平正芳首相が急死</li> <li>●25～29日、京都・京都会館において、第8回FAPA開催</li> <li>●医薬品の製造管理および品質管理規則(GMP)公布</li> </ul>

11月	●20～22日、東京代々木・国立オリンピック青少年総合センターにおいて第1回実務研修会開催	●16日、静岡駅前の地下街でガス爆発。死者15人、重軽傷233人
昭和56年2月	●6日、東京南青山・健保会館において昭和55年度第2回地方連絡協議会開催。主な議題①特別会員の取り扱いをめぐる定款の会員資格を変更する件、②変更案を代議員会に提示	
3月	●1日、「新任薬剤師のための病診薬局ハンドブック第8版」発行	
4月	●1日、熊本・熊本観光ホテルにおいて第11回通常代議員会開催。九州・山口および東海ブロック代議員一同より「調剤技術基本料を1回50点に引き上げること」の決議案が提出され、議決	●第10改正日本薬局方公布
5月	●22日、東京渋谷・薬学会館において第11回通常総会開催。主な議案①定款一部変更案、正会員、特別会員の資格の変更、②有功会員制度の新設 ●同日、同会場において昭和56年度第1回地方連絡協議会開催。主な議題①薬学教育六年制、②卒前・卒後の実務研修受け入れなど	
9月	●病院管理者向けに「病院薬剤師の業務について」小冊子発行	●8日、日本人初のノーベル賞受賞者湯川秀樹氏没(74歳)
11月	●5日、錠剤鑑別法委員会「医薬品識別コード一覧'81」発行 ●27日、理事会開催。初の有功会員97人を委嘱	
昭和57年1月	●25日発行の日病薬誌第18巻第1号より会誌名「Journal of Japan Hospital Pharmacists Association」に変更	
2月	●5日、東京渋谷・薬学会館において昭和56年度第2回地方連絡協議会開催	●8日、東京赤坂のホテル・ニュージャパン全焼。死者32人 ●9日、羽田沖に日航機墜落。原因は機長の逆噴射によるもの
4月	●1日、「新任薬剤師のための病診薬局ハンドブック改訂新版」発行 ●2日、大阪・日経今橋ビルにおいて第12回通常代議員会開催。役員改選により会長に平岡栄一氏選出 ●日病薬の英文名「Japan Hospital Pharmacists Association」から「Japanese Society of Hospital Pharmacists」に変更	●2日、フォークランド諸島で英国とアルゼンチンの間で戦争勃発。6月にアルゼンチン降伏 ●30日、注射用硫酸ポリミキシンBを内服薬として調剤し保険請求しているのは不正請求にあたり返還命令。全国約300施設の病院が返還
6月	●5日、「病院薬局製剤第1版」発行 ●3日、厚生省に対し、注射用硫酸ポリミキシンB事件の対応策として硫酸ポリミキシンBの原末の薬価基準収載を要望	
8月	●4日、東京渋谷・薬学会館において昭和57年度第1回地方連絡協議会開催 ●同日、同会場において第12回通常総会開催 ●31日、日薬高木敬次郎会長に対して診療報酬改定に関する要望書提出。調剤技術基本料を5点から10点に引き上げ要望	●17日、老人保健法公布
昭和58年1月	●25日発行の日病薬誌第19巻第1号より会誌名「Journal of Japanese Society of Hospital Pharmacists」に変更	
2月	●10日、東京南青山・青山会館において昭和57年度第2回地方連絡協議会開催 ●28日、国際交流委員会開催。FIP病院薬学部会会長・オーストラリア病薬会会長B.R.ミラー氏と昭和60年2月、香港で開催予定の第3回汎太平洋臨床薬学会議(PPⅢ)について打ち合わせ会開催。日本からは250人程度の参加者数の要請	
3月	●診療報酬改定により入院調剤技術基本料5点が新設	
4月	●3日、東京内幸町・プレスセンターにおいて第13回通常代議員会開催。平岡栄一会長、会長演述において「日病薬は定款の目的にあるように学術団体でもあるが職能団体でもある」と挨拶 公益法人会計基準に準拠した「会計処理規程(案)」を採択 ●4日、学術第5小委員会「病院薬局と電算機」発行	●15日、東京ディズニーランド開園

年月	日病薬に関する出来事	社会の出来事
5月		●厚生省薬務局長より「医療用医薬品添付文書の記載要領について」通知。「薬効薬理」、「体内薬物動態」、「臨床適用」などの項を新設
6月	●17日、東京渋谷・薬学会館において昭和58年度第1回地方連絡協議会開催	
8月	●同日、同会場において第13回通常総会開催	●21日、フィリピンのアキノ元上院議員暗殺
9月	●23日、名誉会長(初代会長)不破龍登代氏逝去	●1日、大韓航空機、サハリン上空でソ連のミグ戦闘機のミサイルによって撃墜
10月	●18日、日薬高木敬次郎会長に1)調剤料の引き上げ、2)薬歴管理料の新設、3)調剤技術基本料を25点に引き上げなど診療報酬点数改定を要望	●3日、三宅島大噴火
昭和59年3月	●27日、宮城仙台・宮城第一ホテルにおいて第14回通常代議員会開催。来賓オーストラリア病薬会長B.R.ミラー氏挨拶	●10日、医療用医薬品製造業における景品類の提供の制限に関する公正競争規約を認定告示
4月	●「漢方製剤の知識Ⅰ」発行	●18日、青酸ソーダ混入菓子脅迫事件(グリコ・森永事件)発生
5月	●7日、錠剤鑑別法委員会「錠剤鑑別事典第4版」発行	
6月	●8日、東京渋谷・薬学会館において昭和59年度第1回地方連絡協議会開催	●28日、ロサンゼルスオリンピック開幕。金10、銀8、銅14のメダル獲得
7月	●同日、同会場において第14回通常総会開催	●22日、石井道子氏、参議院議員比例代表繰り上げにより初当選
8月	●30日、定款第30条を変更。代議員数を都道府県病薬の会員数で比例配分制に	●6日、全斗煥大統領が韓国大統領として初来日
8月	●10日、日薬高木敬次郎会長らと診療報酬改定に関し懇談	●1日、新札が発行。1万円札福沢諭吉、5千円札新渡戸稲造、千円札夏目漱石
9月		
11月		
12月	●日病薬誌発刊二十周年	
昭和60年2月	●15日、東京渋谷・薬学会館において昭和59年度第2回地方連絡協議会開催	●日薬望月正作専務理事、中医協委員として診療報酬について特別講演
3月	●1日、診療報酬改定により1)入院調剤技術基本料10点に引き上げ、2)IVHの無菌製剤処理加算10点新設	●24～28日、香港・リージェントホテルにおいて第3回汎太平洋臨床薬学会議(PPⅢ)開催
4月	●学術委員会薬物体液中濃度測定指針作成小委員会「薬物血中濃度測定の手引」発行	●1日、専売公社、電電公社民営化。日本たばこ産業株式会社、日本電信電話株式会社(NTT)となる
4月	●2日、石川金沢・みやこホテルにおいて第15回通常代議員会開催。平岡栄一会長病気療養中につき岩崎由雄副会長が代行。主な議案①会費を1,000円値上げして6,000円に、②定款施行細則を変更、③選挙管理規則を制定	●1日、男女雇用機会均等法公布
6月	●学術第8小委員会「医薬情報施設一覧1985年版」発行	●6、7日、福岡・福岡銀行大ホールにおいて第1回クリニカルファーマシー・シンポジウム開催
6月	●14日、東京渋谷・薬学会館において昭和60年度第1回地方連絡協議会開催	●12日、日本航空ジャンボ機御巢鷹山に墜落。520人死亡、我が国最大の航空機事故
8月	●同日、同会場において第15回通常総会開催	●WHOはエイズを感染症と認定
11月	●10日、第四代会長櫻井喜一氏逝去	●医薬品の臨床試験の実施に関する基準(GCP)公表
12月		
昭和61年1月	●27日、錠剤鑑別法委員会「医薬品識別コード一覧'86」発行	
2月	●「調剤数算定基準(案)」を日病薬誌第22巻第2号に掲載	
2月	●28日、東京渋谷・薬学会館において昭和60年度第2回地方連絡協議会開催	●26日、ソ連のチェルノブイリ原子力発電所で大事故。放射能汚染、世界に広がる
4月	●1日、千葉・千葉グランドホテルにおいて第16回通常代議員会開催。会長に田村善藏氏、副会長中川富士雄、佐治栄三、高橋則行の各氏就任	
4月	●同日、「病院薬局製剤第2版」発行	
6月	●11日、東京渋谷・薬学会館において昭和61年度第1回地方連絡協議会開催	
6月	●同日、同会場において第16回通常総会開催	
6月	●30日、人事院総裁に公務員薬剤師(病院診療所勤務)の待遇改善に関する要望書提出	

10月 11月 12月	●24日、日薬高木敬次郎会長に診療報酬改定要望書提出	●日本薬局方公布百年記念式典挙行 ●21日、三原山大噴火。全島民1万人は島外に避難
昭和62年2月  3月 4月 6月 10月	●13日、東京渋谷・薬学会館において昭和61年度第2回地方連絡協議会開催  ●25日、「新任薬剤師のための病診薬局ハンドブック改訂第3版」発行 ●1日、京都・新都ホテルにおいて第17回通常代議員会開催 ●2日、「院内における消毒剤の使用指針初版」発行 ●30日、東京渋谷・薬学会館において昭和62年度第1回地方連絡協議会開催 ●同日、同会場において第17回通常総会開催 ●31日、国際医療技術交流財団（以下、JIMTEF）設立。本会もその事業に参画	●9日、NTTの株式が初上場ストップ高の160万円。にわか成金が続出 ●24日、閣議決定された「エイズ問題総合対策大綱」、厚生省より通知  ●1日、国鉄民営化。JRとなり11グループに分割営業  ●23日、東北新幹線開通  ●19日、ニューヨーク市場で史上最大の株価暴落。「暗黒の月曜日」
昭和63年2月 3月 4月 5月 6月 9月	●12日、東京渋谷・薬学会館において昭和62年度第2回地方連絡協議会開催 ●30日、施設基準に適合する病院に対し、入院患者に調剤技術基本料100点新設 ●3日、広島・広島厚生年金会館において第18回通常代議員会開催。役員改選。会長に高橋則行氏、副会長大西昇、町島啓、金久保好男の各氏就任 ●22日、元副会長齋藤太郎氏逝去 ●16日、国際交流委員会並びに広報出版部会がDirector of prince of Wales Hospital Pharmacy, Dr. Mike Wyerとの座談会開催 ●17日、東京南青山・はあといん乃木坂において昭和63年度第1回地方連絡協議会開催 ●同日、同会場において第18回通常総会開催	●13日、青函トンネル使用開始。青函連絡船は廃止  ●10日、瀬戸大橋開通。宇高連絡船は廃止  ●19日、昭和天皇吹上御所で吐血、重体
昭和64年1月 (平成元年) 2月 4月 5月 6月 7月 10月 11月 12月	●17日、東京南青山・はあといん乃木坂において昭和63年度第2回地方連絡協議会開催。日病薬として独自の学会（仮称・日本病院薬学会）設立提案満場一致で採択 ●3日、愛知名古屋・都ホテルにおいて第19回通常代議員会開催 ●25日、薬学会館改築のため日病薬事務局三貴ビル703号室に仮移転 ●16日、ロングビーチ記念メディカルセンター副薬剤部長 W.E. スミス氏来訪 ●23日、東京南青山・はあといん乃木坂において平成元年度第1回地方連絡協議会開催 ●同日、同会場において第19回通常総会開催 ●24日、本会顧問石井道子氏第15回参議院比例代表区選挙において再選 ●10、11日、東京晴海・ホテル浦島において研修センター主催による第1回薬局・病院薬剤師指導者研修会開催	●7日、昭和天皇崩御、87歳 ●8日、皇太子明仁殿下、皇位継承。平成と改元 ●24日、昭和天皇大喪の礼。164ヵ国の元首級参列  ●1日、消費税スタート  ●4日、天安門事件。民主化要求運動に参加した学生、市民に無差別発砲。数千人が虐殺 ●12日、財団法人日本薬剤師研修センター（以下、研修センター）設立  ●9日、28年振りにベルリンの壁崩壊 ●22日、ルーマニアのチャウセスク独裁政権崩壊。25日、大統領夫妻処刑
平成2年 2月 3月 4月 5月	●「向精神薬等乱用防止のための病院薬局の自主管理マニュアル」を作成。日病薬誌第26巻第2号に掲載 ●27日、東京九段・アルカディア市ヶ谷において平成元年度第2回地方連絡協議会開催 ●診療報酬改定により入院調剤技術基本料200点 ●21日、東京南青山・はあといん乃木坂において第20回通常代議員会開催。研修センター事業への協力など報告 ●30日、医薬品識別コード委員会「医薬品識別コード一覧'90」発行	●1日、「三井銀行」と「太陽神戸銀行」が合併、「さくら銀行」となる。以後大型都市銀行合併へ

年月	日病薬に関する出来事	社会の出来事	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●29日、東京南青山・はあといん乃木坂において平成2年度第1回地方連絡協議会開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●10日、ペルーで日系フジモリ氏大統領選挙において当選</li> <li>●28日、東京南青山・はあといん乃木坂において日本病院薬学会(以下、病院薬学会)設立総会開催</li> <li>●7日、東京九段・九段会館において日本病院薬学会設立記念講演会開催</li> <li>●2日、イラク軍クウェートに侵攻。全土を制圧</li> <li>●25日、麻薬及び向精神薬取締法施行</li> <li>●1日、東証株価2万円を割る。バブル経済崩壊</li> <li>●1日、医薬品の臨床試験の実施に関する基準(GCP)実施</li> <li>●3日、東西ドイツ統一「ドイツ連邦共和国」となる</li> <li>●12日、今上天皇即位の礼大嘗祭</li> </ul>	
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●同日、同会場において第20回通常総会開催</li> <li>●23日、事務局に会員管理用コンピュータシステム(富士通)導入</li> </ul>		
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●21日、「病院薬局製剤第3版」発行</li> </ul>		
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●10日、元副会長野上壽氏逝去</li> </ul>		
11月			
平成3年 1月			
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●22日、東京九段・アルカディア市ヶ谷において平成2年度第2回地方連絡協議会開催</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●15日、イラクフセイン大統領クウェート撤退を拒否。17日、多国籍軍とイラクの湾岸戦争勃発</li> <li>●15日、育児・介護休業法公布</li> <li>●3日、雲仙普賢岳大火砕流発生。死者43人</li> <li>●20、21日東京九段・九段会館において第1回日本病院薬学会年会開催</li> <li>●19日、ソ連にクーデター。12月25日、ソ連は崩壊。エリツィン氏がロシア連邦大統領に就任</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●麻薬及び向精神薬取締法の施行に伴い「向精神薬等取扱いに関する病院・診療所薬局の自主管理マニュアル(改訂)」を日病薬誌第27巻第3号に掲載</li> <li>●20日、学術第1小委員会「抗悪性腫瘍剤の院内取扱い指針初版」発行</li> </ul>		
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●20日、東京南青山・はあといん乃木坂において第21回通常代議員会開催。主な議案①従来本会の事業として編集発行していた「病院薬学」を学術刊行物として病院薬学会に移管了承、②会費を2,000円値上げして8,000円を承認</li> </ul>		
5月			
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●10日、「病院薬学」第17巻第3号より病院薬学会が編集</li> <li>●21日、東京南青山・はあといん乃木坂において平成3年度第1回地方連絡協議会開催</li> <li>●同日、同会場において第21回通常総会開催</li> <li>●30日、日本薬学会会長井記念館(旧薬学会館)落成</li> </ul>		
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●11日、事務局は三貴ビルから長井記念館304号室に移転</li> </ul>		
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●6日、専務理事柴田一雄氏逝去</li> </ul>		
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●17日、厚生省に次回診療報酬改定に際しての要望事項を説明</li> <li>●20日、社団法人化二十周年を記念し「社団法人日本病院薬剤師会20年のあゆみ」発行</li> </ul>		
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1日、東京新宿・京王プラザホテルにおいて平成3年度第2回地方連絡協議会開催</li> <li>●同日、同会場において社団法人化二十周年記念式典および祝賀会挙行</li> <li>●29日、東京荏原・星薬科大学講堂において厚生省薬務局主催、本会共催の医薬品副作用モニター病院連絡会議開催</li> </ul>		
平成4年 2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●21日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において平成3年度第3回地方連絡協議会開催。放射性医薬品の取り扱いなどについて協議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●14日、東海道新幹線に「のぞみ」が登場。東京～新大阪間、2時間30分</li> <li>●公正取引委員会の指導により医薬品流通改善実施(値引補償方式から建値制へ)</li> </ul>	
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●診療報酬改定により入院調剤技術基本料を200点から400点に引き上げ。施設基準病床数を100床に緩和</li> </ul>		
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●専用会議室として三貴ビル9階を使用開始</li> <li>●18日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において第22回通常代議員会開催</li> </ul>		
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1日、東京赤坂・キャピトル東急ホテルにおいてJIMTEF設立五周年記念式典挙行。本会が協力団体として表彰を受ける</li> <li>●12日、東京南青山・はあといん乃木坂において平成4年度第1回地方連絡協議会開催</li> <li>●同日、同会場において第22回通常総会開催</li> </ul>		
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1日の第二次医療法改正に伴い、特定機能病院、療養型病床群に係わる薬剤師数の基準設定に必要な実態の調査を実施</li> </ul>		

<p>平成5年 2月</p> <p>3月</p> <p>4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>8月</p> <p>9月</p> <p>10月</p> <p>12月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●20日、「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性情報改訂4版」発行</li> <li>●26日、東京九段・アルカディア市ヶ谷において平成4年度第2回地方連絡協議会開催</li> <li>●医療法改正。第一条に医療の担い手として医師、看護婦と並び薬剤師が明記。またこの第二次改正医療法施行により特定機能病院82施設が発足。薬剤師の配置基準は入院調剤：入院患者30名に薬剤師1人あるいは外来処方せん80調剤に1人となる</li> <li>●14日現在、入院調剤技術基本料承認病院520施設(日病薬調査)</li> <li>●17日、東京渋谷・日本薬学会長井記念館において、第23回通常代議員会開催</li> <li>●24日、総務部第1回「病院薬剤部門の現状調査」開始</li> <li>●18日、東京南青山・はあといん乃木坂において平成5年度第1回地方連絡協議会開催。注射薬調剤について取り揃えだけか、混合調製までを含めるかについて、診療報酬上の評価も含めて協議。将来は薬剤師が行うべき業務という統一見解</li> <li>●同日、同会場において第23回通常総会開催</li> <li>●25日、医薬品識別コード委員会「医薬品識別コード一覧'93」発行</li> <li>●6～10日の5日間、東京新宿・京王プラザホテルにおいて日薬および本会主催による第53回FIP国際薬剤師・薬学会議およびファーマシューティカルケア・シンポジウムなど開催</li> <li>●10日現在、入院調剤技術基本料承認施設697施設(日病薬調査)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●23日、天皇・皇后、歴代天皇として沖縄初訪問</li> <li>●15日、日本サッカーリーグ(Jリーグ)誕生</li> <li>●18日、東京・帝国ホテルにおいて日薬創立百周年記念式典挙行</li> <li>●9日、皇太子浩宮徳仁殿下と小和田雅子様「結婚の儀」。皇居から東宮仮御所へパレード</li> <li>●11日、ロシア・エリツィン大統領来日。シベリア抑留問題で謝罪</li> <li>●13日、帯状疱疹治療薬ソリブジンと抗がん剤フルオロウラシルとの相互作用により、この1年間に14人が死亡。薬害事故として新聞報道、添付文書のあり方の見直しに発展</li> <li>●16日、田中角栄元首相没(75歳)</li> </ul>
<p>平成6年 2月</p> <p>3月</p> <p>4月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>8月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●25日、東京湯島・池之端文化センターにおいて平成5年度第2回地方連絡協議会開催。主な議題①専任会長制の施行のための定款変更、②6ヵ月間の薬学生実務実習など</li> <li>●1日、診療報酬改定により入院調剤技術基本料は薬剤管理指導料と項目が変更。1ヵ月あたり600点に増額</li> <li>●16日、東京渋谷・日本薬学会長井記念館において第24回通常代議員会開催。主な議案①会長齋藤佑也氏就任、②監事の勧告に基づき専任会長制の導入のため定款の一部変更案の採択、③生涯研修認定制度の実施、④診療所特別委員会新設など</li> <li>●17日、東京南青山・はあといん乃木坂において平成6年度第1回地方連絡協議会開催</li> <li>●同日、同会場において第24回通常総会開催</li> <li>●22日、会議室を三貴ビル9階から隣の八千代ビル2階に移転</li> <li>●15日、人事院を訪問。公務員薬剤師の待遇改善の要望趣旨説明と要望書提出</li> <li>●5日、薬剤管理指導業務の普及のため「薬剤管理指導業務ガイドライン」発表。日病薬誌第30巻第9号に掲載</li> <li>●23日～11月27日、国際協力事業団(以下、JICA)の事業として、途上国9ヵ国の薬剤師を慶應義塾大学、関東通信、北里大学、東邦大学大森、愛知医科大学の5病院において3ヵ月間にわたり2週間ずつの研修を受け入れ</li> <li>●26日、「院内における消毒剤の使用指針改訂版」発行</li> <li>●31日現在、薬剤管理指導料承認施設1,015施設(日病薬調査)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●6日、薬剤師国家試験制度改善検討委員会最終報告に基づき、試験科目は基礎、医療、衛生、薬事関連法規の4区分、240問中50%の120問を医療薬学関連とし、平成8年3月より実施すると薬務局長通知</li> <li>●27日、松本市で有毒ガス(後にサリンと判明)発生。死者7人、重軽傷者660人</li> <li>●30日、社会、自民、さきがけの3党連立内閣発足。社会党村山富市首相誕生</li> <li>●1日、製造物責任法(PL)法公布</li> <li>●8日、北朝鮮金日成主席没(82歳)</li> </ul>

年月	日病薬に関する出来事	社会の出来事
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●11日、米国アイオワ大学副学長H. R. マナッセJr. 日病薬を表敬訪問。午後国際交流委員会委員と「アメリカのヘルスケアの現状と当面する課題」について座談会</li> <li>●26日、「抗悪性腫瘍剤の院内取扱い指針第2版」発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●13日、大江健三郎氏ノーベル文学賞受賞</li> </ul>
平成7年 1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●26日、厚生省健康政策局(以下、健政局)より阪神淡路大震災の被災地に医療スタッフのボランティア派遣を要請</li> <li>●28日、齋藤侑也会長、阪神淡路大震災被災地の視察と兵庫県庁および兵庫県病薬に見舞い訪問</li> <li>●31日、全国病薬に被災地の救援ボランティア薬剤師募集の要請</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●17日、午前5時46分阪神淡路大震災発生、M7.2。死者6,400人超、負傷者約44,000人。家屋全壊約105,000棟、半壊約144,300棟(平成17年末、消防庁まとめ)</li> <li>●米国病院薬剤師会ASHPは、「American Society of Health-System Pharmacists」に名称変更</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●10日、東京南青山・はあといん乃木坂において平成6年度第2回地方連絡協議会開催。主な議題①代議員の任期統一について、②北陸信ブロックの編成を変更し長野県病薬は関東ブロックへ</li> <li>●全国の病薬より、阪神淡路大震災被災者救護所に数次にわたり救援ボランティア薬剤師を派遣。避難所において医薬品の仕分け管理などに活躍</li> <li>●21日、医薬分業推進対策特別委員会開催</li> <li>●24日、第1回地域医療情報特別委員会開催</li> <li>●28日現在、薬剤管理指導承認・届出施設1,512施設(日病薬調査)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●20日、地下鉄サリン事件。東京営団地下鉄霞ヶ関駅付近でサリンがまかれ、死者12人、被害者5,510人</li> <li>●22日、山梨県上九一色村のオウム真理教本部を一斉捜査。大量の化学薬品など押収</li> <li>●19日、1ドル79.75円。戦後最高値</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●29日、宮城仙台・仙台市民会館において薬学会として最後の病院薬局協議会開催。以後、薬学会から独立し本会主催で開催</li> </ul>	
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●5日現在、各病薬に被災会員に対する義援金の拠出を呼びかけ。13,558,263円の義援金が集まり、被災会員に分配。さらに被災会員は会費を1年間免除を議決</li> <li>●14日、齋藤会長、日本医療研修推進財団発起人会(仮称)出席</li> <li>●15日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において第25回通常代議員会開催。主な議案①定款一部変更、②正副議長選出、③会計処理規程の一部変更など</li> </ul>	
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●11日、第24回通常代議員会において議決した定款一部変更案が厚生大臣認可。専任会長制度発足</li> </ul>	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1日、生涯研修認定制度により第1回認定者4,339人に認定証交付</li> <li>●16日、東京南青山・はあといん乃木坂において平成7年度第1回地方連絡協議会開催</li> <li>●同日、同会場において第25回通常総会開催</li> </ul>	
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定款変更による専任会長制を採択後、初の専任会長として齋藤会長が9月より就任</li> <li>●25日～11月26日、第2回JICA海外研修員受け入れ開始</li> </ul>	
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前薬剤業務委員会(平成4、5年)「細胞毒性(変異原性)医薬品の取扱いマニュアル」を日病薬誌第31巻第10号に掲載</li> <li>●20日、薬剤業務委員会「解説 薬剤管理指導業務 その考え方とあり方」発行</li> </ul>	
平成8年 1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1日発行の第32巻第1号より会誌名を「JJSHP」から「日本病院薬剤師会雑誌」に変更</li> </ul>	
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●16日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において平成7年度第2回地方連絡協議会開催。主な議題①薬系大学院生の実務実習受け入れモデル事業、②生涯研修認定制度の認定基準の変更など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●16日、菅直人厚生大臣がHIV訴訟原告ら200人に国の責任を認め謝罪</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●診療報酬改定により薬剤管理指導料450点×2回/月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●14日、薬害エイズ訴訟でミドリ十字が加害責任を認め謝罪</li> </ul>
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●9～15日、病院薬剤師人員配置基準問題で全日本病院協会(以下、全日病)、日本精神病院協会(以下、日精協)、日本病院会(以下、病院会)を訪問。実情を説明</li> <li>●20日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において第26回通常代議員会開催</li> </ul>	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●14日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において平成8年度第1回地方連絡協議会開催。主な議題①病院における薬剤師配置基準、②日病薬政治連盟の設立など</li> </ul>	

7月	●同日、同会場において第26回通常総会開催	●13日、病原性大腸菌O-157による患者10,332人。死者11人
8月	●20日、本会顧問松本純・肥田美代子・大野由利子各氏が衆議院議員選挙において当選	●21日、元日薬会長石館守三氏葬儀
9月	●20日、宮城仙台・仙台市民会館において初の日病業主権による病院薬局協議会開催	●29日、東京地検、薬害エイズ事件で前帝京大学副学長を業務上過失致死罪で逮捕
10月	●1日、本会会員による政治活動を本格化するために政治団体としての届出を東京都選挙管理委員会に提出	
11月	●2日、日本病院薬剤師連盟(以下、日病薬連)設立 ●7日、本会顧問石井道子参議院議員、環境庁長官として入閣 ●21日、第三代会長上野高正氏逝去 ●30日、「新任薬剤師のための病診薬局ハンドブック改訂第4版」発行	
平成9年 1月	●15日、薬剤業務委員会「実例 薬剤管理指導業務 医薬品の適正使用に向けて」発行	
2月	●14日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において平成8年度第2回地方連絡協議会開催。薬剤師法改正による調剤に際しての情報提供義務に対応するため、医薬情報委員会において「重大な副作用回避のための服薬指導情報集」の発行などを協議 ●27日、中小病院委員会「薬剤管理指導業務マニュアル初版」発行	
4月	●1日、「病院薬局製剤第4版」発行 ●19日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において第27回通常代議員会開催	
5月		●7日、厚生省、「医薬品適正使用推進モデル事業担当者会議」開催
6月	●10日、医薬情報委員会「重大な副作用回避のための服薬指導情報集1」発行 ●13日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において平成9年度第1回地方連絡協議会開催。介護保険制度の発足に伴う薬剤師の関与のあり方などを協議 ●同日、同会場において第27回通常総会開催 ●同日、同会場において米国病院薬剤師会副会長Dr. J. A. Oddis特別講演	●17日、臓器移植法成立
8月		●31日、ダイアナ元英国皇太子妃、パリセーヌ川沿いのトンネルで交通事故。死亡(36歳)
9月	●8日、日本血液製剤協会に製造年月日などに関するバーコードのシール添付について要望 ●10日、日薬と帯同して病院の薬剤師員数算定基準に関する要望書を厚生省健康政策局長に提出	
10月	●9日、齋藤侑也会長、JIMTEF「個別研修病院薬剤師コース開講式」出席	●1日、長野新幹線開通 ●24日、日薬薬剤師倫理規定公布 ●介護保険法可決成立
12月		
平成10年1月	●9日、東京渋谷・日病薬事務局において厚生省麻薬課と乱用薬物の管理のあり方研究班に関する打ち合わせ	
2月	●10日、齋藤侑也会長以下、全国自治体病院協議会(以下、全自病)、全日病、日精協、日本医療法人協会(以下、医療法人協会)、厚生省医療審議会(以下、医療審)委員および厚生省医薬安全局を訪問。病院薬剤師配置基準に関して説明、陳情 ●13日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において平成9年度第2回地方連絡協議会開催	●2日、郵便番号7桁へ ●7日、長野冬季オリンピック開幕。金5、銀1、銅4のメダル獲得
4月	●10日、「高齢者における薬剤管理指導業務マニュアル」発行 ●11日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において第28回通常代議員会開催。主な議案①役員改選。会長に北澤式文氏就任、②代議員会開催時期を4月から2月に変更議決 ●20日、医薬情報委員会「重大な副作用回避のための服薬指導情報集2」発行	●1日、薬剤管理指導料480点×2回/月に改定 ●5日、明石海峡大橋開通
6月	●5日、北澤会長、日医、病院会、全自病、医療法人協会、	●6日、日本内分泌攪乱化学物質学会(通称「環境ホルモ

年月	日病薬に関する出来事	社会の出来事
<p>7月</p> <p>8月</p> <p>9月</p> <p>10月</p> <p>11月</p> <p>12月</p>	<p>全日病、日精協に、薬剤師配置基準問題について説明、理解を求める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●12日、東京渋谷・日本薬学会長井記念館において平成10年度第1回地方連絡協議会開催。代議員会、地方連絡協議会、常務理事会、理事会などの諸会議のあり方の見直しを協議</li> <li>●同日、同会場において第28回通常総会開催</li> <li>●6日、北澤会長ほか、全日病秀嶋会長、医療法人協会藤原会長を訪問。病院薬剤師配置基準問題について説明理解を求める</li> <li>●12日、本会顧問山本正和氏参議院議員選挙において当選</li> <li>●22日、北澤会長ほか、厚生省健康政策局(以下、健政局)長を訪問。病院薬剤師業務の現状について説明、理解を求める</li> </ul> <p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●19日、各種病院団体薬剤部と「病院薬剤師配置基準問題の経過説明と意見交換会」開催</li> <li>●24～26日、東京南青山・はあといん乃木坂において新GCP対策特別委員会第1回「薬剤師治験コーディネーター養成研修会」開催</li> </ul> <p>9月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●1日、厚生省医療審委員秋葉保次日薬常務理事に病院薬剤師業務について説明。病院薬剤師配置基準問題での発言内容について打ち合わせ</li> <li>●10日、薬剤業務委員会「解説 薬剤管理指導業務 その考え方とあり方」発行</li> </ul> <p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●1日、インターネットに日病薬ホームページを開設</li> <li>●8日、東京渋谷・日本薬学会長井記念館において平成10年度臨時地方連絡協議会開催。人員配置基準の答申について説明するも紛糾。緊急に臨時代議員会を招集することを決議</li> <li>●31日、中小病院委員会「薬剤管理指導業務マニュアル1998」発行</li> </ul> <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●10日、厚生省健政局長、医薬安全保険局長に配置基準答申を受け勤務薬剤師の人員整理などないよう要望書提出</li> <li>●11日、厚生省保険局長に人員配置基準対策として病院薬剤師フィーに特段の配慮をする要望書提出</li> <li>●13日、東京晴海・東京ホテル浦島において第29回臨時代議員会開催。主な議案①人員配置基準の答申について説明、②千葉県病薬より今回の配置基準について反対の決議文が提出され承認可決、③会長の不信任案採決の結果、信任49票、不信任69票で不信任案が可決</li> <li>●27日、平野公展会長代行ほか、厚生省中西医薬安全局長に臨時代議員会の経緯と結果を報告</li> </ul> <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●4日、運営会議・第6回診療報酬対策特別委員会合同会議開催</li> <li>●17日、平野会長代行ほか、病院会、全自病、医療法人協会、全日病、日精協へ要望書提出</li> </ul>	<p>ン学会」発足</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●31日、北朝鮮、弾道ミサイル発射。日本上空を越えて三陸沖に着弾</li> <li>●7日、厚生省医療審は「病院薬剤師配置基準見直し」について厚生大臣に、一般病院は入院患者70名および外来処方せん80枚に薬剤師1を答申</li> <li>●7日、金大中韓国大統領来日</li> <li>●25日、江沢民中国主席来日</li> </ul>
<p>平成11年1月</p> <p>2月</p> <p>3月</p> <p>4月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●重大な副作用回避事例報告制度の呼称をPRE-AVOID(プレアボイド)と変更</li> <li>●11日、新配置基準に伴う雇用問題相談窓口開設</li> <li>●18日、加野弘道専務理事、松本純衆議院議員に人員配置問題について経緯と結果を報告</li> <li>●同日、学術第5小委員会「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性情報初版」発行</li> <li>●20日、平野公展会長代行、健政局に急性期病床群と慢性期病床群の薬剤師配置基準問題について申し入れ</li> <li>●5日、東京渋谷・日本薬学会長井記念館において第30回通常代議員会開催。役員改選、会長に全田浩氏就任</li> <li>●12日、全田次期会長以下、厚生省中西医薬安全局長、土井脩審議官を訪問。今後の対策について相談</li> <li>●5、6日、東京南青山・はあといん乃木坂において薬剤師治験コーディネーター養成フォローアップ研修会開催</li> <li>●17日、東京渋谷・日本薬学会長井記念館において第31回臨時代議員会開催。主な議案①雇用問題相談窓口報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●16日、都立広尾病院の看護婦が誤って注射シリンジに入れた消毒剤を患者に注入し、死亡事故発生と報道</li> <li>●1日、セクシャル・ハラスメント防止義務などの改正男女雇用機会均等法が施行</li> </ul>

<p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月 8月</p> <p>9月</p> <p>10月</p> <p>11月</p>	<p>告、②広報部再設置、③配置基準の3年後見直しに対する取り組みなど</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●30日、薬剤業務委員会「消毒剤による医療事故防止について」の指針を策定。日病薬誌第35巻第6号に掲載</li> <li>●7日、加野専務理事、石射正英事務局次長、医療関係団体および日本看護協会(以下、看護協会)を訪問。消毒剤の取り扱いに関する医療事故防止対策について説明</li> <li>●13日、東京・日比谷記者クラブにおいて「消毒剤による医療事故防止対策について」記者会見</li> <li>●5日、東京渋谷・日本薬学会長井記念館において平成11年度第1回地方連絡協議会開催。主な議題①生涯研修認定制度、②介護保険制度導入後の対応策、③院内薬局の委託化問題など</li> <li>●同日、同会場において第29回通常総会開催</li> <li>●23日、第六代会長平岡栄一氏逝去</li> <li>●1日、第1回生涯研修履修認定者2,085人に認定証交付</li> <li>●10日、医薬情報委員会「重大な副作用回避のための服薬指導情報集3」発行</li> <li>●11日、事務局を東京渋谷・日本薬学会長井記念館8階に移転し、会議室と一体化</li> <li>●24日、北海道札幌・共済ホールにおいて平成11年度病院薬局協議会開催</li> <li>●25日、「消毒薬の使用指針第3版」発行</li> <li>●3日、大阪・大阪薬業年金会館において第1回薬剤管理指導業務完全実施推進大会開催</li> <li>●「病院薬局製剤第4版—検索システム—」発行</li> <li>●1日、JICWELS必須医薬品製造管理研修・病院薬学コース研修員、日病薬に来訪</li> <li>●5日、全代会長以下、厚生省保険局尾崎医療課長に診療報酬改定に関する要望書の説明と提出</li> <li>●6日、東京大手町・サンケイ会館において平成11年度第2回地方連絡協議会開催。薬剤管理指導業務の完全実施推進対策などについて協議</li> <li>●20日、大阪・大阪薬業年金会館において実務研修会第20回記念関西地区研修会開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●11日、石原慎太郎氏東京都知事選挙において当選</li> <li>●9日、日の丸、君が代を国旗、国歌とする法律が可決。成立</li> <li>●30日、東海村の核燃料処理施設JCOで臨界事故発生。従業員49人が被爆</li> <li>●西暦2000年になるとコンピュータが99から00に移行する際に誤作動を起こす恐れがあると、銀行、鉄道その他で対策に追われる</li> <li>●西暦2000年を迎えるにあたり各地でミレニアムのイベントが開催</li> </ul>
<p>平成12年1月</p> <p>2月</p> <p>3月</p> <p>4月</p> <p>6月</p> <p>7月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●22日、東京新宿・東京医科大学臨床講義室においてプレアボイド報告促進全国担当者連絡会議開催</li> <li>●5日、東京渋谷・日本薬学会長井記念館において第32回通常代議員会開催。主な議案①常勤役員に関する規程、②常勤役員報酬審査委員会の設置を採択</li> <li>●16日、厚生省医薬安全局高山企画課長にジゴキシン半量含有製剤に関する要望書提出</li> <li>●25日、日薬副会長選挙に本会代表として伊賀立二氏(東大医学部附属病院薬剤部長)を推薦。病院薬剤師代表は現職の日薬高橋則行副会長と重なり選挙、伊賀氏当選</li> <li>●28日、「薬剤師治験コーディネーター養成研修会講義録」発行</li> <li>●診療報酬改定により薬剤管理指導料350点×4回/月に改定</li> <li>●8日、続発する医療事故防止対策としてリスクマネジメント対策特別委員会設置(委員長土屋文人常務理事)</li> <li>●3日、東京九段・九段会館において第2回薬剤管理指導業務完全実施推進大会開催</li> <li>●4日、東京渋谷・日本薬学会長井記念館において平成12年度第1回地方連絡協議会開催。主な議題①リスクマネジメント対策の取り組み状況報告、②プレアボイド報告の現状説明など</li> <li>●同日、同会場において第30回通常総会開催</li> <li>●8日、中小病院委員会「薬剤管理指導業務マニュアル改訂第3版」発行</li> <li>●25日、本会顧問肥田美代子・三井辨雄両氏衆議院議員選挙において当選</li> <li>●26日～平成13年3月、国際交流委員会の厚生省科学研究補助事業として「外国人研究者招聘事業」により、全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●27日、薬害エイズ事件で旧ミドリ十字の歴代3社長に実刑判決</li> <li>●26日、ロシア大統領選挙においてプーチン氏当選</li> <li>●2日、現職小渕恵三首相脳梗塞で緊急入院</li> <li>●16日、良子皇太后没(97歳)</li> </ul>

年月	日病薬に関する出来事	社会の出来事
8月 9月 10月 11月 12月	<p>国8病院に外国人研究者を招聘</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●12日、全田浩会長ほか、厚生省保健医療局国立病院部小田政策医療課長に「医薬品・医療器具等関連医療事故防止のための報告制度」について説明</li> <li>●1日、「医薬品・医療用具関連事故防止対策について」小冊子を作成。会員施設をはじめ、日薬、病院団体、看護協会など関連団体に配付。日病薬誌第36巻第10号の付録として収載</li> <li>●6日、京都・国立京都国際会館において平成12年度病院薬局協議会開催</li> <li>●14日、東京新宿・東医健保会館において精神病院対策特別委員会「全国精神病院担当者会議」開催</li> <li>●29日～11月4日、全田会長、厚生科学研究海外視察として米国に出張</li> <li>●31日、JICWELS必須医薬品製造管理研修病院薬剤師コース研修員来訪</li> <li>●18日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において理事会開催。薬剤業務委員会「入院患者のための注射剤調剤指針」(案)承認。日病薬誌第37巻第2号に掲載</li> <li>●同日、同会場において平成12年度第2回地方連絡協議会開催</li> <li>●25日、東京南青山・はあといん乃木坂において療養病床対策特別委員会「全国介護保険担当者会議」開催</li> <li>●6日、事務局にJICA研修員2人来訪。懇談</li> <li>●8日、UCSF・Dr.S.Kayser事務局来訪。プレアボイド活動などについて懇談</li> <li>●同日、リスクマネジメント対策特別委員会「一医薬品過誤防止のための一注射薬写真集CD-ROM 2001」発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●18日、三宅島大噴火。住民避難</li> <li>●15日、シドニーオリンピック開幕。高橋尚子選手女子マラソンで初の金メダル</li> <li>●12日、東京地下鉄大江戸線全線開通</li> </ul>
平成13年1月 2月 3月 5月 6月 7月 9月 10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●13日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において薬学教育委員会による「薬学教育改革シンポジウム」開催</li> <li>●20日、「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性情報改訂新版」発行</li> <li>●27日、名古屋国際会議場において国際交流委員会によるシンポジウム「医薬品の適正使用における病院薬剤師の役割」開催</li> <li>●10日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において第33回通常代議員会開催。主な議案①代議員会議長改選、②役員辞任および選任の件、③選挙管理規則施行細則の一部変更案、④常勤役員に関する規程案など</li> <li>●12日、全田浩会長、金子達也理事、厚生労働省(以下、厚労省)第1回「病院における薬剤師の人員配置基準に関する検討会」出席</li> <li>●17日、全田会長、金子理事、厚労省第2回「病院における薬剤師の人員配置基準に関する検討会」出席</li> <li>●2日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において平成13年度第1回地方連絡協議会開催。主な議題①国際学会参加助成規程の新設、②病院薬剤師配置基準見直し対策など</li> <li>●同日、同会場において第31回通常総会開催</li> <li>●10日、医薬情報委員会「重大な副作用回避のための服薬指導情報集4」発行</li> <li>●17日、全田会長、金子理事、厚労省第3回「病院における薬剤師の人員配置基準に関する検討会」出席</li> <li>●29日、本会顧問常田享詳・藤井基之両氏参議院議員選挙において当選</li> <li>●同日、元事務局長山田栄一氏逝去</li> <li>●13日、全田会長、金子理事、厚労省第4回「病院における薬剤師の人員配置基準に関する検討会」出席</li> <li>●21日、東京荏原・星薬科大学において平成13年度病院薬局協議会開催</li> <li>●3日、小林輝明副会長、厚労省第4回「医療安全対策連絡会議」出席</li> <li>●5日、全田会長、金子理事、厚労省第5回「病院における薬剤師の人員配置基準に関する検討会」出席</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1日、日本病院薬学会は学会名称を「日本医療薬学会」に改称</li> <li>●6日、厚生省組織再編。厚生労働省(以下、厚労省)と名称変更</li> <li>●10日、ハワイ沖で宇和島水産高校の練習船えひめ丸が米海軍原子力潜水艦と衝突沈没</li> <li>●11日、熊本地裁、ハンセン病国家賠償請求訴訟で国の違憲性を認め賠償金支払いを命じる</li> <li>●11日、同時多発テロ発生。旅客機がニューヨークの世界貿易センタービル、米国防総省に同時突入。死者、行方不明者3,000人を超える</li> <li>●26日、厚労省第6回「病院における薬剤師の人員配置基準に関する検討会」開催。配置基準の見直しは今後の推移を見極める必要があり、現時点でただちに変更する必然性は認められない。3年後を目途に再度見直すこと</li> </ul>

12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●13日、東京九段・アルカディア市ヶ谷において平成13年度第2回地方連絡協議会開催。主な議題①病院薬剤師配置基準見直し対策、②薬学教育改革の取り組みについてなど</li> <li>●同日、同会場において社団法人化三十周年記念式典および祝賀会举行</li> <li>●16日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において平成13年度臨時地方連絡協議会開催。主な議題①配置基準検討会で指摘された課題への対応策、②薬剤管理指導業務の完全実施など</li> </ul>	<p>と結論、最終報告された</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●1日、皇太子夫妻に第一子誕生。「愛子」と命名</li> <li>●22日、奄美大島沖で北朝鮮とみられる国籍不明船と海上保安庁巡視艇「いなさ」と銃撃戦。不明船は沈没</li> </ul>
平成14年1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>2月           <ul style="list-style-type: none"> <li>●4日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において「製薬企業のための病院薬局研修会」開催</li> <li>●9日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において第34回通常代議員会開催。主な議案①病院薬剤師配置基準見直しについて、②役員改選、③新理事指名など</li> </ul> </li> <li>4月           <ul style="list-style-type: none"> <li>●2日、五代会長永瀬一郎氏逝去</li> </ul> </li> <li>5月           <ul style="list-style-type: none"> <li>●13日、全田浩会長、矢後和夫副会長、厚労省第20回「薬剤師養成問題懇談会」出席</li> </ul> </li> <li>6月           <ul style="list-style-type: none"> <li>●1日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において平成14年度第1回地方連絡協議会開催。主な議題①国立学校設置法施行規則改正問題への対応、②薬学教育改革など</li> <li>●同日、同会場において第32回通常総会開催。第1回功労賞の表彰</li> <li>●5日、全田会長、藤上雅子副会長、厚労省第1回「薬剤師問題検討会」出席</li> </ul> </li> <li>7月           <ul style="list-style-type: none"> <li>●10日、「病診薬局ハンドブック第5版」発行</li> </ul> </li> <li>8月           <ul style="list-style-type: none"> <li>●16日、診療所特別委員会「病院・診療所薬局業務に役立つ薬剤師サポートブック初版」発行</li> <li>●27日、全田会長、「長期病院・薬局実務実習打合せ」出席</li> </ul> </li> <li>9月           <ul style="list-style-type: none"> <li>●13日、全田会長、金子達也理事、医療法人協会豊田堯会長を訪問</li> </ul> </li> <li>10月           <ul style="list-style-type: none"> <li>●2日、全田会長、文科科学省（以下、文科省）第1回「薬学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」出席</li> <li>●14日、中小病院委員会「薬剤管理指導業務マニュアル改訂第4版」発行</li> <li>●18日、福岡・アクロス福岡において平成14年度病院薬局協議会開催</li> </ul> </li> <li>11月           <ul style="list-style-type: none"> <li>●11日、奥村勝彦副会長、石射正英常務理事、「専門薬剤師に関する打合せ」出席</li> <li>●17日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において平成14年度第2回地方連絡協議会開催。主な議題①病院薬剤師部のあり方検討特別委員会の設置、②薬学生実務実習受け入れ体制の整備など</li> </ul> </li> <li>12月           <ul style="list-style-type: none"> <li>●13日、全田会長、文科省第3回「薬学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」出席</li> <li>●20日、矢後副会長、厚労省第5回「薬剤師問題検討会」出席</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●23日、雪印食品は狂牛病対策の牛肉買い取り制度を悪用、輸入牛肉を国内産と偽り買い取らせていたことが発覚。4月30日、雪印食品解散</li> <li>●31日から韓国と日本でサッカーW杯開催</li> <li>●5日、住民基本台帳ネットワークシステム開始</li> <li>●17日、小泉純一郎首相北朝鮮初訪問、金正日総書記と会談。拉致被害者8人死亡、5人生存と発表</li> <li>●12日、インドネシアのバリ島で爆弾テロ。日本人2人を含む190人が死亡</li> <li>●23～26日、モスクワでチェチェン武装勢力が劇場占拠。市民129人死亡</li> <li>●10日、小柴昌俊東大名誉教授ニュートリノ天文学で物理学賞を、島津製作所の田中耕一氏は化学賞と、二人同時にノーベル賞受賞</li> </ul>
平成15年2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において第35回通常代議員会開催。定款施行細則の一部変更などを採択</li> <li>●5日、「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安全性情報改訂3版」発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1日、スペースシャトル・コロンビア事故。大気圏再突入時に空中分解。乗員7人全員が死亡</li> <li>●25日、ノ・ムヒョン韓国大統領就任</li> <li>●12日、WHO、原因不明の重症急性呼吸器症候群（SARS）が中国広東省、香港、ベトナムで集団発生していると発表</li> <li>●1日、日本郵政公社発足</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●10日、医薬情報委員会「プレアボイド1 薬学的患者ケアの実践とその成果」発行</li> <li>●18日、全田浩会長、文科省第7回「薬学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」出席</li> </ul>	
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●10日、「病院薬局製剤第5版」発行</li> <li>●24日、全田会長、「関東地区薬学部学生の病院・薬局実習に関する協議会総会」出席</li> </ul>	

年月	日病薬に関する出来事	社会の出来事
5月	●30日、東京南青山・はあといん乃木坂において「フレッシュCRAのための治験セミナー2003」開催	
6月	●7日、東京半蔵門・ダイヤモンドホテルにおいて平成15年度第1回地方連絡協議会開催。主な議題①病院薬剤師配置基準問題、②薬学教育改革、③国立大学附属病院薬剤部問題など ●同日、同会場において第33回通常総会開催 ●17日、全田会長、文科省第10回「薬学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」出席	●1日、フランスのエビアンで第29回サミット開催。「議長総括文書」に北朝鮮拉致問題の解決が採択
8月		●27日、北朝鮮核問題などをめぐり、初の6ヵ国協議
9月	●6日、病院薬剤師配置基準見直し対策特別委員会開催 ●10日、精神科病院特別委員会「精神科薬剤師業務標準マニュアルー服薬指導のポイントー」発行 ●26日、兵庫・神戸国際会議場において平成15年度病院薬局協議会開催 ●「病院薬局製剤第5版CD-ROM検索システム」発行	
10月	●25日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において平成15年度第2回地方連絡協議会開催。主な議題①感染管理薬剤師認定に向けての対応、②病院薬剤師配置基準見直し対策、③薬学教育改革、④薬剤師認定制度認証機構の準備状況について、⑤CRCと臨床試験の在り方を考える会議報告、⑥医療事故に対する日病薬の対応についてなど	
11月	●1日、療養病床特別委員会「高齢者医療・介護における薬剤業務Q&A 療養病床薬剤業務ハンドブック」発行 ●9日、本会顧問肥田美代子・三井辨雄・松本純の各氏衆議院議員選挙において当選 ●18日、全田会長、「薬学教育協議会法人化検討委員会」出席	
12月	●1日、奥村勝彦副会長、関口久紀専務理事、「薬剤師認定制度認証機構準備会」出席 ●22日、全田会長、文科省第17回「薬学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」出席。「薬学教育改善・充実に関する（最終報告）」を提出	●13日、米軍、イラクのフセイン大統領の身柄を拘束 ●26日、後方支援のため自衛隊をイラクに派遣。航空自衛隊先遣隊出発
平成16年1月	●15日、中小病院委員会「疾患別 薬剤管理指導ハンドブック」発行	
2月	●7日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において第36回通常代議員会開催。主な議案①役員改選、②諸規程の変更案採択など ●19日、厚労省による社団法人に関する立入実施検査 ●21日、診療所特別委員会「診療所・小規模施設のための薬剤師サポートブック追補版」発行	●18日、中央教育審議会は「薬学教育の改善・充実に関する」答申。薬剤師養成教育6年制へ ●25日、北朝鮮の核開発問題に関する第2回6ヵ国協議が北京で開催
3月	●26日、診療所特別委員会「病院・診療所薬局業務に役立つ薬剤師サポートブック第2版」発行	●17日、厚生労働大臣の諮問機関「医道審議会」は、慈恵医大青戸病院での腹腔鏡手術ミスと、埼玉医科大学総合医療センターの抗がん剤過剰投与事件にかかわった計4医師を3年6ヵ月から3ヵ月の医業停止処分にするよう答申
4月	●専門薬剤師認定制度特別委員会設置	●1日、成田空港および営団地下鉄が民営化。東京メトロとなる ●14日、日本歯科医師会会長が橋本龍太郎元総理に1億円を渡したことが発覚、逮捕 ●21日、学校教育法・薬剤師法一部改正公布
5月		
6月	●5日、東京南青山・はあといん乃木坂において平成16年度第1回地方連絡協議会開催。 ●同日、同会場において第34回通常総会開催	
7月	●11日、参議院議員選挙において、自民党惨敗。本会推薦の小西恵一郎氏落選 ●29日、全田浩会長、第1回「薬剤師認定制度認証機構社員総会」出席	
8月	●17日、日病薬誌創刊四十周年座談会開催	●13日よりアテネオリンピック開幕。日本は金メダル16個を獲得、東京オリンピック以来の成績
9月	●8日、全田会長、「関東地区薬系大学学長・学部長懇談会」出席	
10月	●1日、「プロブレムリスト作成の手引き」発行 ●15日、「病院薬剤師業務マニュアルー病院薬剤師業務の	●23日、新潟県中越地方にM6.8の大地震発生。死者48人、家屋全壊2,821棟

<p>11月</p> <p>12月</p>	<p>標準化に向けて」発行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●21日、全田会長、関口久紀専務理事、「国民医療推進協議会総会」出席</li> <li>●22日、東京湯島・東京医科歯科大学5号館4階講堂において第1回リスクマネジメント研修会開催</li> <li>●13日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において平成16年度第2回地方連絡協議会開催</li> <li>●19日、矢後和夫常務理事、「全国薬科大学長・薬学部長会議設立総会」出席</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1日、新札発行。1万円札福沢諭吉、5千円札樋口一葉、千円札野口英世</li> <li>●4日、米国大統領選挙においてブッシュ大統領再選</li> <li>●26日、インドネシアのスマトラ島で発生したM9.0の大規模地震による津波は、インドネシア・マレーシア・インド・スリランカ・アフリカの各国に及び、死者22万人を超える被害を出した</li> </ul>
<p>平成17年1月</p> <p>2月</p> <p>3月</p> <p>4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>8月</p> <p>9月</p> <p>10月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●31日、1月3日に発生した持参薬の投薬ミスによる死亡事故の再発防止対策として、「入院時患者持参薬に関する薬剤師の対応について」を緊急通達</li> <li>●5日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において第37回通常代議員会開催。入院時持参薬に関する薬剤師の対応について報告</li> <li>●20日、「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性情報改訂4版」発行</li> <li>●7日、実務実習受け入れ体制整備の一環として、実務実習指導薬剤師の調査開始</li> <li>●24日、全田浩会長、「社会保障審議会(以下、社保審)医療部会」出席。「医薬品の安全使用体制の確立に向けて」を発言</li> <li>●10日、「抗悪性腫瘍剤の院内取扱い指針 改訂版 抗がん剤調製マニュアル」発行</li> <li>●30日、臨床試験対策特別委員会「フレッシュCRAのためのテキスト」発行</li> <li>●4日、東京渋谷・日本薬学会会長井記念館において平成17年度第1回地方連絡協議会開催</li> <li>●同日、同会場において第35回通常総会開催</li> <li>●30日、がん専門薬剤師および感染制御専門薬剤師認定制度について公表</li> <li>●25日、厚労省は平成18年度概算要求のなかに、補助先を本会とする専門薬剤師研修事業費として1億円を要求</li> <li>●11日、本会顧問三井辨雄・松本純両氏衆議院議員選挙において当選</li> <li>●15日、中小病院委員会「疾患別 薬剤管理指導ハンドブック2」発行</li> <li>●同日、東京虎ノ門・虎ノ門パストラルにおいて平成17年度第2回地方連絡協議会開催</li> <li>●同日、同会場において創立五十周年記念式典および祝賀会挙行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●20日、米国ブッシュ大統領2期目の就任</li> <li>●20日、午前10時53分、福岡沖玄界島を震源とするM7.0の地震発生</li> <li>●25日、日本国際博覧会(愛知万博)開幕</li> <li>●9日、中国の北京で10,000人規模の反日デモ。大使館などに投石</li> <li>●25日、JR西日本福知山線が尼崎のカーブで脱線、マンシオンに激突。死者107人の大惨事となる</li> <li>●11日、衆議院議員選挙において郵政民営化を掲げた自民党が歴史的な大勝。薬系議員逢坂誠二・渡嘉敷奈緒美両氏当選</li> </ul>